

HP Project and Portfolio Management Center

ソフトウェアバージョン: 9.30

HP Program Managementユーザーガイド

ドキュメントリリース日: 2014年9月 (英語版)
ソフトウェアリリース日: 2014年9月



ご注意

保証

HP製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載は、追加保証を提供するものではありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HPはいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

権利の制限

機密性のあるコンピューターソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、HPからの有効な使用許諾が必要です。商用コンピューターソフトウェア、コンピューターソフトウェアに関する文書類、および商用アイテムの技術データは、FAR12.211および12.212の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

著作権について

© Copyright 1997 - 2014 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

商標について

Adobe®は、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の登録商標です。

Microsoft®およびWindows®は、米国におけるMicrosoft Corporationの登録商標です。

UNIX®は、The Open Groupの登録商標です。

ドキュメントの更新情報

このマニュアルの表紙には、以下の識別情報が記載されています。

- ソフトウェアバージョンの番号は、ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメントリリース日は、ドキュメントが更新されるたびに更新されます。
- ソフトウェアリリース日は、このバージョンのソフトウェアのリリース期日を表します。

更新状況、およびご使用のドキュメントが最新版かどうかは、次のサイトで確認できます。<http://h20230.www2.hp.com/selfsolve/manuals>

このサイトを利用するには、HP Passportへの登録とサインインが必要です。HP Passport IDの登録は、次のWebサイトから行なうことができます。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>

または、HP Passport のログインページの **[New users - please register]** リンクをクリックします。

適切な製品 サポート サービスをお申し込みいただいたお客様は、更新版または最新版をご入手いただけます。詳細は、HPの営業担当にお問い合わせください。

次の表に、最後にリリースされたエディション以来、このドキュメントに加えられた変更点を示します。

サポート

HPソフトウェアサポートオンラインWebサイトを参照してください。<http://www.hp.com/go/hpsoftwaresupport>

このサイトでは、HPのお客様窓口のほか、HPソフトウェアが提供する製品、サービス、およびサポートに関する詳細情報をご覧いただけます。

HPソフトウェアオンラインではセルフソルブ機能を提供しています。お客様のビジネスを管理するのに必要な対話型の技術サポートツールに、素早く効率的にアクセスできます。HPソフトウェアサポートのWebサイトでは、次のようなことができます。

- 関心のあるナレッジドキュメントの検索
- サポートケースの登録とエンハンスメント要求のトラッキング
- ソフトウェア/パッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HPサポート窓口の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の閲覧
- 他のソフトウェアカスタマーとの意見交換
- ソフトウェアトレーニングの検索と登録

一部のサポートを除き、サポートのご利用には、HP Passportユーザーとしてご登録の上、サインインしていただく必要があります。また、多くのサポートのご利用には、サポート契約が必要です。HP Passport IDを登録するには、次のWebサイトにアクセスしてください。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>

アクセスレベルの詳細については、次のWebサイトをご覧ください。

http://h20230.www2.hp.com/new_access_levels.jsp

HP Software Solutions Nowは、HPSWのソリューションと統合に関するポータルWebサイトです。このサイトでは、お客様のビジネスニーズを満たすHP製品ソリューションを検索したり、HP製品間の統合に関する詳細なリストやITILプロセスのリストを閲覧することができます。このサイトのURLは<http://h20230.www2.hp.com/sc/solutions/index.jsp>です。

目次

第1章: はじめに	7
HP Program Managementについて	7
HP Program Managementの概要	7
関連ドキュメント	9
第2章: プログラムの作成	11
プログラムの作成の概要	11
プログラムの作成	11
第3章: ビジネス目標、問題、リスク、スコープ変更	13
ビジネス目標の概要	13
ビジネス目標の作成	13
ビジネス目標の管理	14
ビジネス目標の変更	15
ビジネス目標の削除	16
問題、リスク、プロジェクトスコープの変更の送信	16
プログラムの問題の送信	17
プロジェクトの問題の送信	20
プログラムレベルのリスクの送信	23
プロジェクトリスクの送信	26
プロジェクトのスコープ変更の送信	29
第4章: プログラムの表示と変更	33
プログラムの検索、変更、エクスポートの概要	33
プログラムの検索	33
検索ボックスの使用	34
[プログラムの検索] ページの使用	34
プログラムの変更の概要	37
プログラムの一般情報の変更	37
[プログラムの概要] ページへの列の追加	40
列値を基準としたプログラムのグループ化とグループ解除	40
プログラムからのライフサイクルエンティティ、ビジネス目標、参照の削除	41
プログラムの削除	41

プログラムの設定	42
HP Financial Management	42
HP Portfolio Management	43
プログラムインジケータの設定	43
プロジェクトおよびプログラムの問題	43
プログラムリスク	45
プログラムのスコープ変更	46
プログラム設定の変更	48
プログラムアクセスの設定	52
プログラムの優先度の更新	55
プログラム参照の追加	55
参照としての添付ファイル	55
参照としての既存パッケージ	56
参照としての新規パッケージ	57
参照としてのプロジェクト	58
参照としての既存リクエスト	59
参照として新規リクエスト	61
参照としてのタスク	62
参照としてのURL	63
Microsoft Excelへのプログラムのエクスポート	63
第5章: プログラムの管理	65
HP Program Managementの管理の概要	65
問題の管理	65
プログラムの問題の検索	66
プロジェクトの問題の検索	67
問題アクティビティの分析	69
問題解決時間の分析	71
リスクの管理	71
プロジェクトリスクの検索	72
プログラムリスクの検索	73
リスクアクティビティの分析	74
リスク解決時間の分析	75
スコープ変更の管理	76
スコープ変更の検索	76
スコープ変更アクティビティの分析	77
スコープ変更解決時間の分析	79
プログラムプロセスの管理	80

問題プロセスの管理	80
プロジェクトリスクプロセスの管理	81
プログラムリスクプロセスの管理	81
スコープ変更プロセスの管理	82
第6章: [プログラムマネージャ] ページ	83
[プログラムマネージャ] ページの概要	83
PPM Dashboardへの [プログラムマネージャ] ページの追加	84
[プログラムマネージャ] ページのポートレット	85
プログラムリストポートレット	85
プログラムコンテンツリストポートレット	85
問題リストポートレット	86
プログラムのスコープ変更リストポートレット	86
プログラムリスクリストポートレット	87
プログラムコスト サマリポートレット	87
ポートレットのカスタマイズ	88
ドキュメントのフィードバックを送信	90

第1章: はじめに

- 「HP Program Managementについて」(7ページ)
- 「HP Program Managementの概要」(7ページ)
- 「関連ドキュメント」(9ページ)

HP Program Managementについて

HP Program ManagementはProject and Portfolio Management Center (PPM Center) の一製品であり、これを使用して組織のプログラムおよびライフサイクルエンティティのポートフォリオの起動、運用、管理を一元的に行うことができます。

注: 本書では、「ライフサイクルエンティティ」という用語は、提案、プロジェクト、または資産を表すために使用されます。「ライフサイクルエンティティ」は提案、プロジェクト、および資産を任意に組み合わせたものです。

各ライフサイクルエンティティは新規作成が可能です。ただし通常の場合、提案は、承認されると自動的にプロジェクトになり、プロジェクトは完了すると自動的に資産になります。この進行をライフサイクルと呼びます。提案、プロジェクト、資産は、このライフサイクルを構成するエンティティです。

HP Program Managementを使用して、次のことが可能です。

- ITプロジェクトとビジネス目標の連係
- 重複作業や優先度の低い作業の排除
- 運用効率の向上
- 納期および予算の遵守

HP Program Managementでは、これらのビジネス要件を満たすため、完全なプログラムライフサイクルソリューションを提供します。この製品により、関連するすべての機能仕様および優先順位を体系的に把握できます。プロジェクトスコープ、承認済み予算、その他のビジネスルールに基づき、ビジネスユーザーが承認する仕組みが組み込まれています。お客様は、関連する提案、プロジェクト、資産、リクエストの表示と管理を1か所で行うことができるようになります。

HP Program Managementの概要

プログラムとは、一連の関連するライフサイクルエンティティのまとまりです。一般的に、ビジネス目標を達成するために作業を調整することを目的としています。HP Program Managementを使用して、組織の提

案、プロジェクト、資産を概略的に把握するプログラムを作成できます。

注: プログラムの作成方法については、「[プログラムの作成](#)」(11ページ)を参照してください。プログラムを表示し、プログラムの優先度、一般情報、ヘルスインジケータ、セキュリティを更新する方法については、「[プログラムの表示と変更](#)」(33ページ)を参照してください。

ライフサイクルエンティティをまとめて1つのプログラムにする理由はさまざまです。プログラムを作成することで、1つのビジネス目標を達成するための一連のプロジェクトを管理できます。たとえば、1つの成果物を中心としてプログラムを設計することもあれば(インフラストラクチャ、連携開発、その他の成果物が必要なプロジェクト)、特定のクライアントのための作業を中心としてプログラムを設計することもあります。

ライフサイクルエンティティをどのようにプログラムにまとめるかは、組織内部での管理方法によって異なります。各プログラムには1人以上のオーナー(プログラムマネージャ)がおり、このオーナーがライフサイクルエンティティ全体の調整、個々のプロジェクトで解決できない問題の解決、全体の予算管理などを担当します。

ビジネス目標は異なるが、何か共通点がある一連のライフサイクルエンティティを可視化するためにプログラムを設計する場合もあります。たとえば、ある部署がオーナーとなっているすべてのプロジェクトをまとめて把握するためのプログラムを作成できます(個々のプロジェクトが属しているプログラムがその他の関係を持たないことは問いません)。

HP Program Managementにより、プログラムの有効期間中に発生するさまざまなリスク、問題、変更を評価し、これらのイベントを管理するために必要な変更を加えることができます。

注: ビジネス目標を設定してプログラムと関連付ける方法について、またリクエストを使ってプログラムの有効期間中に発生する懸念事項に対応する方法については、「[ビジネス目標、問題、リスク、スコープ変更](#)」(13ページ)を参照してください。プログラムの管理方法については、「[プログラムの管理](#)」(65ページ)を参照してください。

HP Program Managementにより、次のことが可能になります。

- 関連するITプロジェクトの監督
- プロジェクト間の成果物およびマイルストーンの調整
- スコープの変更管理
- リスクの識別と緩和
- プロジェクト間の問題の解決

HP Program Managementインターフェースにアクセスするには、PPM Dashboardおよびメニューバーを使用します。PPM Dashboardに表示されるポートレットをカスタマイズすることで、特定のビジネス要件を満たすことができます。

注: PPM Dashboardページで表示できるHP Program Managementポートレットの詳細については、「[\[プログラムマネージャ\] ページ](#)」(83ページ)を参照してください。

標準 インタフェースの一番上にはメニューバーがあります。これは階層的に編成されたタスクメニューで構成されています。HP Program Managementのほとんどの作業は、[開く] > [Program Management] メニューの項目から実行できます。ただし、このマニュアルで取り上げる一部のタスクを実行するには、[Project Management] および [管理] のサブメニューを使用します。「[図 1-1. メニューバーとPPM Dashboard](#)」(9ページ)に、メニューバーとPPM Dashboardを示します。

図 1-1. メニューバーとPPM Dashboard

ダッシュボード ▼ 開く ▼ 検索 ▼ 作成 ▼ マイリンク ▼ 履歴 ▼ ★

ダッシュボード - Program Manager

Program Manager リセット サイクル エクスポート 追加 パーソナライズ

プログラム名	相対的優先度	プログラム マネージャ	プログラムのステータス	問題	リスク	スコア変更
Black Diamond Initiative		Carolyn Sayer	活動	▲ 7	▲ 14	▲ 12
Enterprise Business Applications	3	Carolyn Sayer	新	● 0	● 0	● 0
Partner Program	2	Carolyn Sayer	活動	● 11	▲ 12	● 3
One World	1	Carolyn Sayer	活動	● 10	▲ 15	■ 12

Excelにエクスポート ◀ ◁ 1 - 4 / 4 を表示 ▷ ▶

問題リスト
このポートレットのプリファレンスを編集してください。

プログラムのスコア変更リスト
このポートレットのプリファレンスを編集してください。

プログラムリスクリスト
このポートレットのプリファレンスを編集してください。

関連ドキュメント

このマニュアルに加え、次の関連ドキュメントを参照することをお勧めします。

- HP Program Management Configuration Guide
- HP Project Managementユーザーガイド
- HP Demand Managementユーザーガイド
- HP Financial Managementユーザーガイド
- HPエンティティガイド (HP Program Managementのすべてのポートレット、リクエストタイプ、ワークフロー、およびワークフローの説明があります)

注: HP Program Managementの多くの制御は、『A Guide to the Project Management Body of

Knowledge』(プロジェクトマネジメント協会が発行しているPMBOKガイド)に基づいてモデル化されています。これらのプログラム制御には、問題、リスク、スコープ変更が含まれています。

第2章: プログラムの作成

プログラムの作成の概要

プログラムとは、プロジェクトと、関連するスコープの変更、リスク、問題の集まりです。プログラムにより、プロジェクト全体をドリルダウンしたり、関連データをロールアップしたりすることができます。また、プロジェクトと同様に、プログラムにもヘルスインジケータと設定可能な例外インジケータがあります。本章では、PPM Centerでプログラムを作成する方法について説明します。

たとえば、XYZ社では、マネージャが営業部門との統合を強化するために、カスタマサービス用コンピュータシステムのアップグレードを監督するプログラムを作成しています。カスタマサービス、営業、ITの各マネージャは、プロジェクトを作成します。各リソースが自分の作業を行う中、プログラムを通じて作業をリンクし、監視します。同時に、プログラムに対して送信されたリスクおよびスコープ変更のトラッキングと管理も行います。

プログラムの作成


プログラムを作成するには、HP Program Managementのライセンスのほか、[プログラムの編集] および [プログラムの作成] のアクセス許可、または [すべてのプログラムの編集] のアクセス許可が必要です。アクセス許可の詳細については、『セキュリティモデルのガイドとリファレンス』を参照してください。

プログラムを作成するには、次の手順を実行します。

1. PPM Centerにログオンします。
2. メニューバーから、[作成] > [プログラム] を選択します。

[新規プログラムの作成] ページが開きます。

新規プログラムの作成

プログラム名:
プログラム マネージャ: Admin User 

3. [プログラム名] フィールドに、プログラムの名前を入力します。
4. (オプション) [プログラムマネージャ] フィールドで、プログラムマネージャとして任命するリソースを1人以上指定します。デフォルトでは、このフィールドには現在のユーザが表示されます。

注: プログラムにカスタムユーザフィールドを追加した場合、[新規プログラムの作成] ページにこ

のフィールドが表示されます。

5. **[作成]** をクリックします。

プログラムが作成され、[プログラムの概要] ページが開きます。

第3章: ビジネス目標、問題、リスク、スコープ変更

- 「ビジネス目標の概要」(13ページ)
- 「問題、リスク、プロジェクトスコープの変更の送信」(16ページ)

ビジネス目標の概要

ビジネス目標により、ビジネス上の目標を、優先順位の設定とPPM Centerのほかのエンティティ(プログラムなど)との関係が可能な個別のエンティティとして把握できます。たとえば、XYZ社は「納期に向けて注文を減らす」というビジネス目標を作成し、優先度をアサインし、カスタマサービス用システムをアップグレードするために作成したプログラムと関連付けています。ビジネス目標の作成は、HP Portfolio ManagementでもHP Program Managementでも可能です。

プログラムを既存の目標と関連付けることもできます。プログラムをまだ存在しないビジネス目標と関連付けるには、プログラムの作成前にビジネス目標を作成するか、プログラムの作成後にビジネス目標を作成して関連付けます。本項では、HP Program Managementからビジネス目標を作成するステップについて説明します。

ビジネス目標の作成

ビジネス目標を作成するには、次の手順を実行します。


1. PPM Centerにログインします。
2. メニューバーから、[作成] > [管理] > [ビジネス目標] を選択します。

[新規ビジネス目標の作成] ページが開きます。

新規ビジネス目標の作成

名前:

ステータス:

オーナー: 

優先度:

説明:

3. 追加するビジネス目標の情報を入力します。

フィールド名	説明
名前	ビジネス目標の名前。
ステータス	ビジネス目標のステータス。 <ul style="list-style-type: none">■ 進行中: ビジネス目標は未達成です。■ 達成済み: ビジネス目標は達成済みです。■ キャンセル済み: ビジネス目標はキャンセル済みです。
オーナー	このビジネス目標を担当するプログラスマネージャ。
優先度	ビジネス目標のランク付けをするために使用する、ゼロ以外の正の整数。複数のビジネス目標が同じ優先度を持つことができます。
説明	ビジネス目標の説明。

4. [作成] をクリックします。

[ビジネス目標の管理] ページに、新しい目標が表示されます。

注: PPM Centerインスタンスが複数の言語をサポートしている場合、作成するビジネス目標は、ログオン時に選択した言語 (セッション言語) で定義されます。ビジネス目標は、作成した後、定義言語でのみ変更できます。詳細については、『Multilingual User Interface Guide』を参照してください。

ビジネス目標の管理

本項では、ビジネス目標の編集および削除方法について説明します。

ビジネス目標の変更

ビジネス目標は時間の経過とともに変化することがあるため、詳細を追加したり古い情報を削除したりして更新します。

注: PPM Centerインスタンスで複数の言語がサポートされており、ビジネス目標がセッション言語以外の言語で定義されている場合、ビジネス目標を変更することはできません。詳細については、ヘッダの[理由]をクリックするか、『Multilingual User Interface Guide』を参照してください。

ビジネス目標を変更するには、次の手順を実行します。

1. PPM Centerにログオンします。
2. メニューバーから、[検索] > [管理] > [ビジネス目標] を選択します。

[ビジネス目標の管理] ページが開き、既存の目標がリストされます。

ビジネス目標の管理


名前	ステータス	オーナー	優先度	説明
× ビジネス目標_01	進行中			
× ビジネス目標_02	進行中			
× ビジネス目標_03	進行中			
× ビジネス目標_04	進行中			
× ビジネス目標_05	進行中			

[新規ビジネス目標の作成](#)

3. [名前] 列で、変更するビジネス目標の名前をクリックします。

[ビジネス目標の変更] ページが開きます。

ビジネス目標の変更: ビジネス目標_01

名前:	<input type="text" value="ビジネス目標_01"/>
ステータス:	<input type="text" value="進行中"/>
オーナー:	<input type="text"/> 
優先度:	<input type="text"/>
説明:	<div style="border: 1px solid #ccc; height: 30px; width: 100%;"></div>

[フィールドのクリア](#)

[完了](#) [キャンセル](#)

4. 必要に応じてフィールドの値を変更し、[完了] をクリックします。

ビジネス目標の削除

ビジネス目標が古くなった場合、削除できます。

ビジネス目標を削除するには、次の手順を実行します。

1. PPM Centerにログオンします。
2. メニューバーから、[検索] > [管理] > [ビジネス目標] を選択します。

[ビジネス目標の管理] ページが開き、既存の目標がリストされます。

ビジネス目標の管理

名前	ステータス	オーナー	優先度	説明
× ビジネス目標_01	進行中			
× ビジネス目標_02	進行中			
× ビジネス目標_03	進行中			
× ビジネス目標_04	進行中			
× ビジネス目標_05	進行中			

[新規ビジネス目標の作成](#)

3. 古い目標の左側にある [削除] アイコンをクリックします。

HP Program Managementから、目標の削除の確認を求められます。

4. [OK] をクリックします。ビジネス目標が削除されます。

問題、リスク、プロジェクトスコープの変更の送信

プログラムの有効期間中には、対応が必要な懸念事項が発生します。PPM Centerのフレームワークでは、リクエストを使用して、このような懸念事項を特定および解決します。リクエストは、送信 (作成)、トラッキング、却下、完了、レポートが可能です。

プログラムには、次のリクエストが影響します。

- **プログラムの問題:** プログラムそのものの実行に関する問題を管理するには、プログラムの問題を送信します。たとえば、プログラムにマネージャやサポートスタッフをうまくアサインできない場合、または企業の方向性が変わったためにプログラムの目標の再評価が必要な場合は、プログラムの問題を送信します。プログラムにリンクされているプロジェクトについて記録された問題をプロジェクトマネージャが解決できない場合、その問題をプログラムレベルで可視化する必要があります。多くの場合、プログラムの問題を解決するには、複数のプロジェクト間での連携が必要です。
- **プロジェクトの問題:** プロジェクトの問題により、プロジェクト関連のすべての問題を特定および解決するフレームワークが提供されます。解決プロセスを詳細に示すため、問題が複数のリクエストタイプにま

たがっていることもあります。

たとえば、バグや機能拡張はいずれも問題であり、トラッキングにおいては共通するフィールドもありますが、各リクエストタイプはそれぞれにアサインされたワークフローに沿って処理されます。

- **プログラムリスク:**プログラムそのものの実行に関する脅威を管理するには、プログラムリスクを送信します。プログラムのヘルスインジケータを設定し、さまざまなレベルのリスクについてユーザに警告できます。[プログラムの概要] ページには、プログラムリスクと、プログラムに含まれるプロジェクトのプロジェクトリスクの両方が表示されます。
- **プロジェクトのリスク:**リスクにより、プロジェクトに対する脅威を記録および解決できます。起こり得るリスクに関する情報 (インパクト、発生の確率など) を収集するプロセスは合理化されています。プログラムのヘルスインジケータを設定し、さまざまなレベルのリスクについてユーザに警告できます。

たとえば、XYZ社のプログラムマネージャは、カスタマサービスのアップグレードプログラムで、インパクトレベル1、発生の確率が[高]のリスクが2個を超えて作成された場合に赤のインジケータが表示されるように設定しています。

- **プロジェクトのスコープ変更:**スコープの変更により、プログラムおよび個々のプロジェクトのスコープを管理できる状態を維持できます。送信したスコープ変更リクエストは評価された後、却下されるか、プログラムまたはプロジェクトのスコープに組み込まれます。プログラムおよびプロジェクトのスコープを制御するには、起こり得る変更を明確に特定、調整、処理する必要があります。

プログラムの問題の送信

プログラムの有効期間中に、問題が発生したり、ビジネス上の意思決定が行われてプログラムの問題を追加する必要が生じたりすることがあります。このような変更の特定、処理、意思決定には、[問題]を使用します。これらの問題を特定し、重要情報 (インパクトレベル、発生の確率) を収集し、迅速に処理するために、Program Managementの[問題]リクエストタイプを使用します。

プログラムの問題を送信するには、次の手順を実行します。

注: プログラムの問題を送信するには、プログラムの問題を作成できる、[プログラムの問題]リクエストタイプの参加者として指定されている必要があります。これは、リクエストWorkbenchの[リクエストタイプ]ウィンドウで設定します。

1. PPM Centerにログオンします。
2. メニューバーから、[作成] > [プログラムの問題] を選択します。

注: 必要な権限がある場合、HP Demand Managementでプログラムの問題を送信することもできます。

[新規プログラムの問題の作成] ページが開きます。

新規プログラムの問題の作成

送信 キャンセル

すべて展開する | すべて折りたたむ

- サマリ

問題ステータス:
未送信

作成者:
Admin User

プログラム:

優先度:

アサイン先:

説明:

- 問題の詳細

特定日:

期日:

問題タイプ:

詳細な説明:

提案された解決:

ビジネス機能:

- メモ

+ メモの追加

+ 参照

3. すべての必須フィールド ([プログラム]、[優先度]、[説明]、[特定日]) と、この問題に関連付けるオプション情報を入力します。

フィールド名	説明
[サマリ] セクション	
プログラム	問題に関連付けられているプログラム。
優先度	問題の優先度。HP Program Managementでは、問題はアサインされている優先度の値によってグループ化されます。 [優先度] フィールドに入力した値は、プログラムのヘルスの計算に使用されます。
アサイン先	この問題がアサインされているリソース。
説明	問題の説明。
[問題の詳細] セクション	
特定日	問題が認識された暦日。
期日	問題解決の期限。
問題タイプ	発生中の問題のタイプ。
詳細な説明	問題の詳細な説明。
提案された解決	問題に対して提案されている解決策。
ビジネス機能	この問題による影響を受けるビジネス機能。
[メモ] セクション:メモの追加	
保存時に追加されるメモ	プログラムの問題について記録される追加情報
[参照] セクション:[参照の追加]	
新規参照	プログラムに追加される参照。詳細については、「 プログラム参照の追加 」(55ページ)を参照してください。

4. **[送信]** をクリックします。

送信したプログラムの問題リクエストが、アサインされたワークフローに自動的に沿って、解決に向けて進められます。

プロジェクトの問題の送信

プロジェクトの有効期間中に発生した障害やビジネス課題を管理するには、[プロジェクトの問題] リクエストタイプを使用します。プロジェクトの問題で、これらの課題を特定し、重要情報 (インパクトレベル、発生の確率) を収集し、迅速に処理します。

プロジェクトの問題を送信するには、次の手順を実行します。

注: プロジェクトの問題を送信するには、プロジェクトの問題を作成できる、[プロジェクトの問題] リクエストタイプの参加者として指定されている必要があります。これは、リクエストWorkbenchの[リクエストタイプ] ウィンドウで設定します。

1. PPM Centerにログオンします。
2. メニューバーから、[作成] > [プロジェクトの問題] を選択します。

[新規プロジェクトの問題の作成] ページが開きます。

新規プロジェクトの問題の作成

送信 キャンセル

すべて展開する | すべて折りたたむ

- サマリ

問題ステータス:
未送信

作成者: Admin User アサイン先:

*プロジェクト:

*優先度: *エスカレーションレベル:

*説明:

- 問題の詳細

*特定日: 期日:

問題タイプ:

詳細な説明:

提案された解決:

ビジネス機能:

+ メモ

+ 参照

- すべての必須フィールド ([プロジェクト]、[優先度]、[エスカレーションレベル]、[説明]、[特定日]) と、この問題に関連付けるオプション情報を入力します。

注: HP Program Managementにプロジェクトの問題を表示するには、プロジェクトをプログラムに追加 (またはプログラムをプロジェクトの問題に参照として追加) し、[プロジェクトの問題] の詳細ページの [サマリ] セクションで [エスカレーションレベル] に [プログラム] を選択します。

フィールド名	説明
[サマリ] セクション	
アサイン先	この問題がアサインされているリソース。

フィールド名	説明
プロジェクト	問題に関連付けられているプロジェクト。
優先度	問題の優先度。 このフィールドの値はプロジェクトの問題ヘルスに関連付けられています ([問題ヘルス] ポリシーで設定)。詳細については、『HP ProjectManagementユーザーガイド』の「プロジェクトタイプの設定」の章を参照してください。
エスカレーションレベル	問題のエスカレーションレベル。取り得る値は [プロジェクト] または [プログラム] です。プロジェクトに関連付けられているプログラムがある場合、エスカレーションレベルを [プログラム] に設定することで、プログラムレベルで問題を可視化できます。プログラムを使用していない場合、このフィールドは非表示になっていることがあります。
説明	問題の説明。
[問題の詳細] セクション	
特定日	問題が認識された暦日。
期日	問題解決の期限。
問題タイプ	発生中の問題のタイプ。
詳細な説明	問題の詳細な説明。
提案された解決	問題に対して提案されている解決策。
ビジネス機能	この問題による影響を受けるビジネス機能。
[メモ] セクション:メモの追加	
保存時に追加されるメモ	プロジェクトの問題について記録される追加情報
[参照] セクション:[参照の追加]	
新規参照	プロジェクトに追加される参照。詳細については、 手順4 を参照してください。

4. プログラムをプロジェクトの問題に参照として追加するには、次の手順を実行します。

- a. [新規プロジェクトの問題の作成] ページで、[参照] セクションを展開します。
- b. [新規参照] リストで、[プログラム] を選択します。
- c. [追加] をクリックします。

[参照プログラム] ウィンドウが開きます。

- d. [プログラム] フィールドで、問題に参照として追加するプログラムを選択します。
- e. [追加] をクリックします。

[新規プロジェクトの問題の作成] ページの下部で、[保存時に追加される参照] フィールドに選択したプログラムの名前が表示されます。

5. [送信] をクリックします。

送信したプロジェクトの問題リクエストが、アサインされたワークフローに沿って、解決に向けて進められます。

プログラムレベルのリスクの送信

プログラムが進行すると、そのプログラムにリンクされているリスクが大きくなる場合があります。これらのリスクを特定し、重要情報 (インパクトレベル、発生の確率) を収集し、迅速に処理するために、[プログラムリスク] リクエストタイプを使用します。

注: [プログラムリスク] リクエストタイプは、[ベストプラクティス] コンテンツの一部です。このコンテンツを使用するには、ベストプラクティスをインストール/再インストールする必要があります。

プログラムリスクを送信するには、次の手順を実行します。

1. PPM Centerにログオンします。
2. メニューバーから、[作成] > [プログラムリスク] を選択します。

[新規プログラムリスクの作成] ページが開きます。

新規プログラムリスクの作成

3. すべての必須フィールド ([ワークフロー]、[説明]、[プログラム]、[リスクインパクトレベル]、[確率]) と、このリスクに関連付けるオプション情報を入力します。

注: [ワークフロー] フィールドの情報は自動的に入力されます。

フィールド名	説明
[サマリ] セクション	
作成者	読み取り専用。リスクを作成したリソース。
部署	このリスクが該当する部署。
サブタイプ	リスクの詳細な分類。

フィールド名	説明
ワークフロー	必須フィールド。リクエストが従う必要のあるパスを定義するプロセスをアサインします。
リクエストステータス	読み取り専用。リスクの現在のステータスのインジケータ。
優先度	リスクの優先度。
アプリケーション	このリスクが該当するアプリケーション。
連絡先名	このリスクの連絡先の氏名。
アサイン先	このリスクがアサインされているリソース。
アサイン先グループ	このリスクがアサインされているセキュリティグループ。
連絡先電話番号	読み取り専用。このリスクの連絡先の電話番号。
リクエストグループ	リスクで使用されるリクエストグループ。
連絡先電子メール	読み取り専用。このリスクの連絡先の電子メールアドレス。
説明	リスクの説明。
[プログラム参照] セクション	
プログラム	必須フィールド。リスクに関連付けられているプログラム。
[プログラムリスク] セクション	
リスクインパクトレベル	必須フィールド。リスクの重要度を示す値を選択します。リスクインパクトレベルは、リスクアクティビティの分析とリスク解決時間の計算に使用されます。詳細については、「 リスクアクティビティの分析 」(74ページ)および「 リスク解決時間の分析 」(75ページ)を参照してください。
確率	必須フィールド。リスク発生の予想される確率を示す値を入力します。
[メモ] セクション: メモの追加	
保存時に追加されるメモ	プログラムリスクについて記録される追加情報
[参照] セクション:[参照の追加]	

フィールド名	説明
新規参照	プログラムリスクに追加される参照。詳細については、 手順4 を参照してください。

4. リスクに参照を追加するには、次の手順を実行します。
 - a. **[参照]** セクションを展開します。
 - b. **[新規参照]** リストで、追加する参照を選択します。
 - c. **[追加]** をクリックします。
 - d. 参照を追加します。
 - e. **[OK]** をクリックします。
 - f. **[参照プログラム]** ウィンドウで、**[追加]** をクリックします。

[新規プログラムリスクの作成] ページの下部で、**[保存時に追加される参照]** フィールドに選択した参照の名前が表示されます。

5. **[送信]** をクリックします。

送信したプログラムリスクが、ワークフローに沿って解決に向けて進められます。

プロジェクトリスクの送信

プログラムが進行すると、そのプログラムにリンクされているプロジェクトのリスクが大きくなる場合があります。これらのリスクを特定し、重要情報 (インパクトレベル、発生の確率) を収集し、迅速に処理するために、**[プロジェクトリスク]** リクエストタイプを使用します。

プロジェクトリスクを送信するには、次の手順を実行します。

1. PPM Centerにログオンします。
2. メニューバーから、**[作成]** > **[プロジェクトリスク]** を選択します。

[新規プロジェクトリスクの作成] ページが開きます。

新規プロジェクト リスクの作成

送信 キャンセル

すべて展開する | すべて折りたたむ

- サマリ

リスクステータス:
未送信

作成者: Admin User アサイン先:

*プロジェクト:

優先度: *リスクインパクトレベル: *確率:

説明:

- リスクの詳細

リスクタイプ: *特定日:

詳細な説明:

クローズ基準:

アクション計画:

+ メモ

+ 参照

- すべての必須フィールド ([プロジェクト]、[リスクインパクトレベル]、[確率]、[説明]、[特定日]) と、このリスクに関連付けるオプション情報を入力します。

注: HP Program Managementでプロジェクトリスクを表示するには、プログラムに関連付けられているプロジェクト、またはプログラムそのものを、プロジェクトリスクに参照として追加する必要があります。

フィールド名	説明
[サマリ] セクション	
アサイン先	このリスクがアサインされているリソース。

フィールド名	説明
プロジェクト	リスクに関連付けられているプロジェクト。
優先度	リスクの優先度。
リスクインパクトレベル	リスクの重要度を示す値を選択します。リスクインパクトレベルは、リスクアクティビティの分析とリスク解決時間の計算に使用されません。詳細については、「 リスクアクティビティの分析 」(74ページ)および「 リスク解決時間の分析 」(75ページ)を参照してください。
確率	リスク発生の予想される確率を示す値を入力します。
説明	リスクの説明。
[リスクの詳細] セクション	
リスクタイプ	発生中のリスクのタイプを選択します。
特定日	リスクが認識された暦日。リスクの作成日は、リスクの解決時間の計算に使用されます。詳細については、「 リスク解決時間の分析 」(75ページ)を参照してください。
詳細な説明	リスクの詳細な説明。
クローズ基準	リスクを正常にクローズするための基準。
アクション計画	リスクを処理するために提案されているアクションの計画。
[メモ] セクション:メモの追加	
保存時に追加されるメモ	プロジェクトリスクについて記録される追加情報
[参照] セクション:[参照の追加]	
新規参照	プロジェクトに追加される参照。詳細については、 手順4 を参照してください。

4. プログラムをプロジェクトリスクに参照として追加するには、次の手順を実行します。
 - a. **[参照]** セクションを展開します。
 - b. **[新規参照]** リストで、**[プログラム]** を選択します。
 - c. **[追加]** をクリックします。

[参照プログラム] ウィンドウが開きます。

- d. [プログラム] フィールドで、プロジェクトリスクを参照として追加するプログラムを選択します。
- e. [OK] をクリックします。
- f. [参照プログラム] ウィンドウで、[追加] をクリックします。

[新規プロジェクトリスクの作成] ページの下部で、[保存時に追加される参照] フィールドに選択したプログラムの名前が表示されます。

- 5. [送信] をクリックします。

送信したプロジェクトリスクが、ワークフローに沿って解決に向けて進められます。

プロジェクトのスコープ変更の送信

プログラムの有効期間中にイベントが発生した場合、プログラムのスコープを変更する必要があります。このような変更の特定、処理、実行には、Program Managementの[スコープ変更] リクエストタイプを使用します。

プロジェクトのスコープ変更を送信するには、次の手順を実行します。

- 1. PPM Centerにログオンします。
- 2. メニューバーから、[作成] > [プロジェクトのスコープ変更] を選択します。

[新規プロジェクトのスコープ変更リクエストの作成] ページが開きます。

新規プロジェクトのスコープ変更リクエストの作成

送信 キャンセル

すべて展開する | すべて折りたたむ

- サマリ

スコープ変更ステータス:
未送信

作成者:
Admin User

アサイン先:

プロジェクト:

優先度:

CRレベル:

ビジネスインパクトの重要度:

説明:

- スコープ変更の詳細

アサインリリース:

実施日:

詳細な説明:

提案された変更のベネフィット:

代替:

インパクトを受ける成果物のリスト:

インパクト サマリ:

財務上のインパクト:

スケジュール上のインパクト (日数):

+ メモ

+ 参照

3. すべての必須フィールド ([プロジェクト]、[CRレベル]、[ビジネスインパクトの重要度]、[説明]) と、このスコープ変更に関するオプション情報を入力します。

注: HP Program Managementでスコープ変更リクエストを表示するには、プログラムに関連付けられているプロジェクト、またはプログラムそのものを、スコープ変更リクエストに参照として追加す

る必要があります。

フィールド名	説明
[サマリ] セクション	
アサイン先	このスコープ変更がアサインされているリソース。
プロジェクト	スコープ変更に関連付けられているプロジェクト。
優先度	スコープ変更の優先度。
CRLレベル	スコープ変更のインパクトまたは重要度を示す値を選択します。 [レベル1]は[レベル2]より、また[レベル2]は[レベル3]より大規模なスコープ変更リクエストであることを示します。HP Program Managementでは、[レベル1]または[レベル2]がアサインされているスコープ変更リクエストのみが表示されます。
ビジネスインパクトの重要度	スコープ変更がビジネスに及ぼす影響の重要度。
説明	スコープ変更の説明。
[スコープ変更の詳細] セクション	
アサイン先リリース	このスコープ変更がアサインされているリリース。
実装目標日	スコープ変更を実装する期限。
詳細な説明	スコープ変更の詳細な説明。
提案された変更のベネフィット	提案されたスコープ変更によって得られるベネフィット。
代替	スコープ変更に対して存在する代替案。
インパクトを受ける成果物のリスト	スコープ変更による影響を受ける成果物のリスト。
インパクトサマリ	スコープ変更によって受けるインパクトのサマリ。
財務上のインパクト	スコープ変更のインパクトの金額。
スケジュール上のインパクト (日数)	スコープ変更によって影響を受けるスケジュール上の日数。

フィールド名	説明
[メモ] セクション:メモの追加	
保存時に追加されるメモ	スコープ変更について記録される追加情報
[参照] セクション:[参照の追加]	
新規参照	プロジェクトに追加される参照。詳細については、 手順4 を参照してください。

4. プログラムをスコープ変更リクエストに参照として追加するには、次の手順を実行します。

- a. **[参照]** セクションを展開します。
- b. **[新規参照]** リストで、**[プログラム]** を選択します。
- c. **[追加]** をクリックします。

[参照プログラム] ウィンドウが開きます。

- d. **[プログラム]** フィールドで、スコープ変更を参照として追加するプログラムを選択します。
- e. **[OK]** をクリックします。
- f. **[参照プログラム]** ウィンドウで、**[追加]** をクリックします。

[新規プロジェクトのスコープ変更リクエストの作成] ページの下部で、**[保存時に追加される参照]** フィールドに選択したプログラムの名前が表示されます。

5. **[送信]** をクリックします。

送信したプロジェクトのスコープ変更リクエストが、ワークフローに沿って解決に向けて進められます。

第4章: プログラムの表示と変更

プログラムの検索、変更、エクスポートの概要

本章では、次の項目について説明します。

- [「プログラムの検索」\(33ページ\)](#)

検索ボックスまたは [プログラムの検索] ページを使って、プログラムを検索します。

- [「プログラムの一般情報の変更」\(37ページ\)](#)

[プログラムの概要] ページを表示します。このページから、プログラムの統合ビューを一元的に表示できます。また、プログラムに関連付けられているエンティティにも一元的にナビゲートできます。

- [「プログラムの設定」\(42ページ\)](#)

HP Financial ManagementとHP Portfolio Managementを有効化し、プログラムインジケータを設定します。

- [「プログラムアクセスの設定」\(52ページ\)](#)

機密情報やユーザによっては無用な情報へのアクセスを制御します。

- [「プログラムの優先度の更新」\(55ページ\)](#)

利害関係者に対する可視性を維持するため、プログラムの優先度を調整します。

- [「プログラム参照の追加」\(55ページ\)](#)

さまざまなタイプの情報を参照としてプログラムに追加します。

- [「Microsoft Excelへのプログラムのエクスポート」\(63ページ\)](#)

[プログラムの概要] ページのすべての情報をMicrosoft Excelスプレッドシートにエクスポートします。

プログラムの検索

プログラムの検索には、2つの方法があります。

- **検索ボックス:**プログラムの名前がわかっている場合や、特定の言葉やテキストが名前の先頭や途中に含まれている1つ以上のプログラムを検索する場合に使用します。サーチボックスは上右隅にあります。

す。

- **プログラムの検索ページ:**プログラムマネージャ、プログラムのステータス、含まれているプロジェクト、作成者、ビジネス目標、優先度、作成日などの基準に基づいてプログラムを検索するには、[プログラムの検索] ページを使用します。

検索ボックスの使用

検索ボックスを使って、特定のテキストで始まるプログラム名に基づき、プログラムを検索して開くことができます。

検索ボックスを使ってプログラムを検索し、開くには、次の手順を実行します。

1. PPM Centerにログオンします。
2. メニューバーの右側にある検索ボックスに、「@」に続けて検索するプログラム名の先頭のテキストを入力します。テキストの入力を開始すると、サブメニューが表示されます (検索では、大文字と小文字は区別されません)。
3. 検索テキストの入力が終わったら、[プログラムの検索: <検索テキスト>] を選択します。

検索テキストが一致するプログラム名が1つのみの場合、そのプログラムの[プログラムの概要] ページが表示されます。

検索テキストに一致するプログラム名が複数ある場合は、[プログラムの検索] ページが開き、一致する名前を持つプログラムのリストが表示されます。プログラムの名前をクリックすると、[プログラムの概要] ページが開きます。

[プログラムの検索] ページの使用

[プログラムの検索] ページを使って既存のプログラムを検索し、表示するには、次の手順を実行します。

1. PPM Centerにログオンします。
2. メニューバーから、[検索] > [プログラム] を選択します。
3. [プログラムの検索] ページで検索基準を入力して、[検索] をクリックします。または、すべてのプログラムのリストを表示するには、検索基準を入力せずに[検索] をクリックします。

フィールド名	説明
プログラム名 (前方一致)	文字列を指定します。検索結果には、指定した文字列が名前の先頭にあるすべてのプログラムが表示されます。

フィールド名	説明
プログラムマネージャ	1人以上のユーザを指定または入力します。検索結果には、指定したユーザに管理されているすべてのプログラムが表示されます。
プログラムのステータス	1つ以上のプログラムのステータス値を指定または入力します。検索結果には、指定したステータスに一致するすべてのプログラムが表示されます。
含む	プログラムに関連付けられている1つ以上のライフサイクルエンティティ(提案、プロジェクト、資産)を指定または選択します。検索結果には、指定したライフサイクルエンティティを少なくとも1つ含む、すべてのプログラムが表示されます。
作成者	1人以上のユーザを指定または入力します。検索結果には、指定したユーザによって作成されたすべてのプログラムが表示されます。
ビジネス目標	1つ以上のビジネス目標を指定または入力します。検索結果には、指定したビジネス目標を持つすべてのプログラムが表示されます。
Portfolio Managementが有効になっているプログラムのみ表示	HP Portfolio Managementが有効になっているプログラムを検索するには、 [はい] を選択します。すべてのプログラムを検索するには、 [いいえ] を選択します。
相対的優先度が次の値から / 次の値まで	優先度レベルの範囲を指定します。検索結果には、指定した優先度レベルの範囲内のプログラムが表示されます。
作成日が次の日から / 次の日まで	日付範囲を指定または入力します。検索結果には、指定した日付範囲内に作成されたすべてのプログラムが表示されます。
ソート基準	検索基準に一致するプログラムのソートの基準にするフィールドを選択します。
昇順 / 降順	ソートの順序を指定します。
1ページ当たりの表示結果数	1ページに表示する検索結果の最大数を指定します。 任意の正の整数を入力します。

[プログラムの検索] ページに、検索基準を満たすプログラムがリストされます。

4. **[表示するプログラムの選択]** の下の **[プログラム名]** 列で、プログラム名をクリックします。

[プログラムの概要] ページにプログラムが表示されます。

プログラム: PRG01 保存 完了 詳細

プログラム名: PRG01
 プログラムマネージャ: Admin User プログラムのステータス: アクティブ
 相対的優先度: プログラム全体のヘルス:
 スコア: ポートフォリオ: (上位のポートフォリオなし)
 説明:
 ベネフィット:
 ステータスメモ:

概要 EV分析

プログラムコスト 財務リマ: PRG01

人件費	子測	案値
非人件費		
合計		

コンテンツ クローズしたものを含む

タブ	ヘルス	名前	マネージャ	ステータス	子測人件費	子測非人件費	子測合計	実績人件費	実績非人件費	実績合計	コストのヘルス	達成率 (%)	スケジュール	スケジュールd
プロジェクト	●	test2	Admin User	計画中	JPY0	JPY0	JPY0	JPY0	JPY0	JPY0	0%	7/1/14	8/31/14	

問題、スコープ変更、リスク

● **問題 (プログラムとプロジェクト)**
現在、表示する問題はありません。

● **スコープ変更: レベル 1 と 2 (プロジェクト レベル)**
現在、表示するスコープ変更はありません。

● **リスク (プログラムとプロジェクト) - 合計 +1**

■ インパクト: レベル 3 ■ インパクト: レベル 2
■ インパクト: レベル 1

ビジネス目標 ビジネス目標の追加

名前	ステータス	オーナー	優先度	説明
✖ ビジネス目標_01	進行中			

メモ

新規メモ:

参照

リクエスト

リクエスト番号	アサインされたユーザ	説明	リクエストタイプ	ステータス	達成率 (%)	リレーションシップ	リレーションシップの詳細
30157	Admin User	test	プログラムリスク	オープン	0%	このプログラム (システム) 関連	詳細: リクエストは参照されたプログラムに関連付けられています

参照の追加

新規参照: 強制的に追加されたアイテムは、このプログラムをアクティブに制御しています

保存時に追加される参照:

プログラムの変更の概要

プログラムの有効期間中にはさまざまなことが起こり、プログラムの変更が必要になることがあります。プログラムの次の面を更新できます。

- 一般情報 ([プログラムの概要] ページ)
- ヘルスインジケータとプログラムの設定 ([プログラム設定] ページ)
- アクセス設定 (プログラムの [アクセスの設定] ページ)
- 優先度 ([プログラムの優先順位付け] ページ)

次の各項では、これらの各タスクを実行する手順について説明します。

プログラムの一般情報の変更

[プログラムの概要] ページから、アサイン、ビジネス目標、メモ、参照など、プログラムの一般情報を更新できます。

プログラムの変更または削除には、[PMO: すべてのプログラムの編集] または [PMO: プログラムの編集] のアクセス許可が必要です。アクセス許可の詳細については、『セキュリティモデルのガイドとリファレンス』を参照してください。

プログラムの一般情報を変更するには、次の手順を実行します。

1. PPM Centerにログオンします。
2. プログラムを検索し、選択します ([「プログラムの検索」](#)(33ページ)を参照)。

[プログラムの概要] ページが開きます。

注: プログラムに加えた変更は、[プログラムの概要] ページで **[保存]** または **[完了]** をクリックするまで保存されません。

3. フィールド値に必要な変更を加えます。

フィールド名	説明
プログラム名	プログラム名 (最大 255文字)。
プログラムのステータス	プログラムのステータス。

フィールド名	説明
プログラムマネージャ	プログラムマネージャとしてアサインされているリソース。
プログラム全体のヘルス	プログラム全体のヘルスを評価するためにプログラムにアサインされている定性的な値 (色)。
相対的優先度	読み取り専用。アサインされている場合、組織のほかのプログラムに対する相対的な優先度。優先度をアサインする方法については、「 プログラムの優先度の更新 」(55ページ)を参照してください。
ポートフォリオ	このプログラムでHP Portfolio Managementが有効になっている場合、このプログラムが属するポートフォリオへのリンクの名前。HP Portfolio Managementが有効になっていない場合、このフィールドは表示されません。
スコア	プログラムの価値を評価するための定性的な数値 (整数)。
説明	プログラムの説明。
ベネフィット	プログラムのベネフィットの説明。
ステータスメモ	プログラムのステータスについて記録する追加情報

4. 1つ以上のライフサイクルエンティティをプログラムに関連付けるには、次の手順を実行します。

a. [コンテンツ] セクションで [コンテンツの追加] をクリックします。

[新規プログラムコンテンツの追加] ウィンドウが開きます。

b. エンティティの検索と選択には、2つの方法があります。

- **特定の項目の追加。** 特定のタイプのライフサイクルエンティティを名前で検索します。検索するライフサイクルエンティティのテキストボックスの横にあるアイコンをクリックします。

特定のエンティティの名前を選択した後、[OK] をクリックします。選択したエンティティがテキストボックスに表示されます。[追加] をクリックすると、そのエンティティがプログラムに追加されます。

- **追加するプログラムコンテンツの検索。** 指定した基準を満たすライフサイクルエンティティを検索します。

検索基準を指定した後、[検索] を選択します。基準を満たすライフサイクルエンティティがリストされます。ライフサイクルエンティティの横にあるチェックボックスを使って、プログラムに追加するエンティティを選択し、[追加] をクリックします。

注: リストされるのは、自分が参加しているプロジェクトのみです。[すべてのプロジェクトの表示]のアクセス許可を持っている場合は、すべてのプロジェクトがリストされます。

現在のプログラムでHP Portfolio Managementが有効になっている場合、リストされているのは、別のポートフォリオに属さない、またはHP Portfolio Managementが有効になっているプログラムに属さないライフサイクルエンティティのみです。つまり、ライフサイクルエンティティが別のポートフォリオやHP Portfolio Managementが有効になっているプログラムに属している場合、現在のプログラムへの追加はできません。

現在のプログラムでHP Portfolio Managementが有効になっていない場合、すべてのライフサイクルエンティティがリストされます。

ライフサイクルエンティティをポートフォリオやHP Portfolio Managementが有効になっているプログラムに追加しても、そのポートフォリオまたはプログラムを保存していない場合、そのポートフォリオまたはプログラムを保存するまで、ライフサイクルエンティティは引き続きリストされます。

[コンテンツ] セクションに、選択したライフサイクルエンティティがリストされます。

注: 個々のライフサイクルエンティティを表示 (つまり、提案、プロジェクト、資産を表示) しているとき、[関連付けられたプログラム] フィールドには、そのエンティティが関連付けられているプログラムがリストされます。表示されているのは、自分が[プログラムの表示]、[プログラムの編集]、[すべてのプログラムの編集]のアクセス許可を持っているプログラムのみです。

プロジェクトの作成方法については、『HP Project Managementユーザーガイド』を参照してください。提案および資産の作成方法については、『HP Portfolio Managementユーザーガイド』を参照してください。

- c. **[保存]** をクリックします。プログラムを保存せずに終了すると、追加したコンテンツはプログラムに保存されません。

プログラムに追加しただけで保存しなかったコンテンツは、オレンジ色で強調表示されたイタリックテキストで示されます。

5. [コンテンツ] セクションでプログラムのクローズ済みコンテンツ (ステータスが[クローズ済み]、[完了済み]、[キャンセル済み]になっているコンテンツ) を表示するには、**[クローズしたものを含める]** チェックボックスを選択します。デフォルトでは、クローズ済みコンテンツは [コンテンツ] セクションには表示されません。

注: [コンテンツ] セクションには、プログラムに追加した (ただし保存はしていない) コンテンツが表示されます。クローズ済みコンテンツを追加し、**[クローズしたものを含める]** チェックボックスを選択しない場合、クローズ済みコンテンツはプログラムを保存または終了するまで [コンテンツ] セクションに表示されます。

6. プログラムにビジネス目標を関連付けるには、次の手順を実行します。
 - a. **[ビジネス目標]** セクションで **[ビジネス目標の追加]** をクリックします。
選択 ウィンドウが開き、ビジネス目標のリストが表示されます。
 - b. プログラムに関連付けるビジネス目標の名前をクリックします。
選択 ウィンドウが閉じ、**[ビジネス目標]** セクションに選択した目標がリストされます。
 - c. プログラムにさらにビジネス目標を追加するには、**手順6**を繰り返します。
ビジネス目標の作成方法については、**「ビジネス目標の作成」(13ページ)**を参照してください。
7. プログラムにメモを追加するには、内容を **[新規メモ]** フィールドに入力します。
プログラムの保存後に、ユーザ名、メモの作成日時、およびメモの内容が **[メモ]** セクションに表示されます。
8. プログラムに参照を追加するには、次の手順を実行します。
 - a. **[参照]** セクションの **[新規参照]** リストで、プログラムに追加する参照のタイプを選択します。
 - b. **[追加]** をクリックします。
次に開く選択 ウィンドウは、**[新規参照]** リストで選択した参照タイプによって異なります。参照タイプと対応する選択 ウィンドウの一覧については、**「プログラム参照の追加」(55ページ)**を参照してください。
[保存時に追加される参照] セクションに、選択した参照がリストされます。
 - c. リストされている参照をプログラムに添付するには、**[保存]** をクリックします。
 - d. プログラムから参照を削除するには、参照の名前を選択して **[削除]** をクリックします。
9. プログラムへの変更を保存するには、**[保存]** または **[完了]** をクリックします。

[プログラムの概要] ページへの列の追加

[プログラムの概要] ページの **[コンテンツ]** セクションに列を追加できます。それには、列の見出し行を右クリックしてから、**[列] > [<列名>]** をクリックします。列を削除するには、列名の選択を解除します。

列値を基準としたプログラムのグループ化とグループ解除

[プログラムの概要] ページの **[コンテンツ]** セクションでは、任意の特定の列の各種値に一致する見出しの下にまとめることで、行を整理できます。それには、グループにする値を持った列の列見出しを右クリックしてから、**[<列名> でグループ化]** をクリックします。

グループ化 (見出し) ができた後で任意の列を右クリックすると、追加された [グループ解除] オプションが表示されます。[グループ解除] をクリックすると、見出しが削除されます。

プログラムからのライフサイクルエンティティ、ビジネス目標、参照の削除

[プログラムの概要] ページから、コンテンツ (ライフサイクルエンティティ)、ビジネス目標、参照など、プログラムの一般情報を削除できます。

プログラムからライフサイクルエンティティ、ビジネス目標、参照を削除するには、次の手順を実行します。

1. PPM Centerにログオンします。
2. プログラムを検索し、選択します ([「プログラムの検索」\(33ページ\)](#)を参照)。

[プログラムの概要] ページが開きます。

注: プログラムに加えた変更は、[プログラムの概要] ページで [保存] または [完了] をクリックするまで保存されません。

3. 1つ以上のライフサイクルエンティティをプログラムから削除するには、次の手順を実行します。
 - a. [コンテンツ] セクションで、1つ以上のライフサイクルエンティティを選択します (複数のエンティティを選択するには、[Shift] を押しながらかlick、または [Ctrl] を押しながらかlickします)。
 - b. [コンテンツの削除] をクリックします。
4. ビジネス目標を削除するには、削除するビジネス目標の横にある [削除] アイコンをクリックします。
5. 参照を削除するには、次の手順を実行します。
 - a. 削除する参照の横にある [詳細] をクリックします。
 - b. [削除] をクリックします。

プログラムの削除

プログラムを削除するには、[プログラムの概要] ページを使用します。プログラムのライフサイクルエンティティ、関連付けられているスコープ変更、リスク、問題は削除されません。

注: プログラムを削除するためには、そのプログラムのプログラムマネージャとしてアサインされ、[PMO: プログラムの編集] または [PMO: すべてのプログラムの編集] のアクセス許可を持っている必要があります。

プログラムを削除するには、次の手順を実行します。

1. PPM Centerにログオンします。
2. プログラムを検索し、選択します ([「プログラムの検索」\(33ページ\)](#)を参照)。
[プログラムの概要] ページが開きます。
3. ページの右上隅にある **[削除]** をクリックします。

プログラムの設定

すべてのプログラムには設定があり、プログラムマネージャは個々プログラムを目的に合わせて設定できます。

プログラム設定を表示または編集するには、[プログラムの概要] ページの右上隅にある **[プログラム設定]** をクリックします。

HP Financial Management

HP Financial Managementには、計画関連のコストデータをトラッキングする機能があります。プログラムに含まれているライフサイクルエンティティの財務情報を表示できるのは、そのエンティティが財務情報をトラッキングできるように設定されており、そのプログラムに対してHP Financial Managementを有効にしている場合です。

財務情報には、全体のアクティブなベースラインコスト、予測コスト、実績コストが含まれます。人件費と非人件費、資本支出と事業費に基づく内訳も表示されます。プロジェクト計画の実行中のコストデータを取得し、このコストデータをプロジェクトまたはプログラムの財務サマリに記録されている財務データと比較できます。

HP Financial Managementが有効になっている場合、[プログラムの概要] ページには [プログラムコスト] セクションと [EV分析] タブが表示されます。[プログラムコスト] セクションには、提案、プロジェクト、資産の財務データのサマリが表示され、プログラムのコストをトラッキングできるようになっています。[EV分析] タブでは、SPIやCPIなどのコストデータをプログラム内のプロジェクト全体で比較できます。コストデータおよび公式の詳細については、『HP Financial Managementユーザーガイド』を参照してください。

[プログラムコスト] セクションでは、リンクを選択してプログラムの財務サマリを表示することもできます。財務サマリには、プログラムに含まれているすべての提案、プロジェクト、資産の財務情報の概要が表示され、Microsoft® Excelにデータをエクスポートできます。詳細については、『HP Financial Managementユーザーガイド』を参照してください。

注: プログラムの財務サマリで表示されるカテゴリは、資本計上トラッキングを有効にしているかどうかによって異なります。

HP Portfolio Management

プログラムに対してHP Portfolio Managementを有効にしている場合、ポートフォリオにプログラムを追加できます。現在、プログラムがポートフォリオに関連付けられている場合、そのプログラムに対してHP Portfolio Managementを無効にすることはできません。

ポートフォリオにプログラムを追加するには、次の要件を満たしている必要があります。

- Portfolio Managementのライセンスを持っていること
- プログラムに対してHP Portfolio Managementが有効になっていること
- HP Portfolio Managementが有効になっているプログラムを追加できるポートフォリオは1つのみです。たとえば、Program1をPortfolio1に追加した場合、ほかのポートフォリオにはProgram1を追加できません。
- プログラムのコンテンツ(提案、プロジェクト、資産)を追加できるのは、HP Portfolio Managementが有効になっているポートフォリオまたはプログラム1つのみです。たとえば、Program1でHP Portfolio Managementが有効になっており、Project1をProgram1に追加した場合、Project1をPortfolio1に追加することはできません。同様に、Proposal1をPortfolio1に追加した場合は、Proposal1をProgram1に追加することはできません。

詳細については、『HP Portfolio Managementユーザーガイド』を参照してください。

プログラムインジケータの設定

プログラムインジケータにより、プログラムの問題、スコープ変更、リスクのステータスをすぐに把握できます。これらのインジケータは、[プログラムの概要] ページのプログラムリストポートレットで色分けされたアイコンとして表示されます。

HP Program Managementで表示できる各リクエストタイプには、それぞれヘルスインジケータがあります。これは、ほかのインジケータと無関係に設定することが可能です。これらのインジケータを設定するには、[プログラム設定] ページの[ヘルスインジケータ] セクションを使用します。次の各項では、これらのヘルスインジケータについて説明します。

プロジェクトおよびプログラムの問題

問題により、プロジェクトおよびプログラム関連のすべての問題を特定および解決するためのフレームワークが提供されます。解決プロセスをより詳細に示すため、問題が複数のリクエストタイプにまたがっていることもあります。

問題がプログラムに対して直接記録されている場合は、プログラムそのものに問題があることを示しています。たとえば、企業の方向が変更された場合、プログラムの目標を再評価する必要が生じることがあります。

注: プロジェクトについて送信された問題は、必要に応じてプログラムレベルにエスカレーションされま

す。プログラムレベルにエスカレーションされていないプロジェクトの問題は、HP Program Managementでは表示されません。

プログラムにリンクされているプロジェクトについて記録された問題をプロジェクトマネージャが解決できない場合、その問題をプログラムレベルで可視化する必要があります。たとえば、問題を解決するために、複数のプロジェクト間での連携が必要なことがあります。

注: HP Program Managementでは、問題のトラッキングがデフォルトで有効になっています。問題のトラッキングを無効にするには、[プログラム設定] ページの [プログラムの問題] サブセクションで、[このプログラムの問題をトラッキング] オプションの横にある [いいえ] を選択し、[保存] をクリックします。

問題のヘルスは、優先度がアサインされている問題の数に基づいています。プログラムの問題のヘルスの計算で考慮されるのは、そのプログラムについて直接記録されたオープンされている問題か、そのプログラム内のアクティブなプロジェクトのプログラムレベルにエスカレーションされたオープンされている問題のみです (プロジェクトがクローズされて資産になった場合、そのプロジェクトからプログラムレベルにエスカレーションされた問題はHP Program Managementで引き続き表示され、プログラムの問題のヘルスの計算に使用されます)。プログラムマネージャは、異なる優先度がアサインされた問題にさまざまな重みをアサインできます。また、ヘルスのステータスレベル (黄色および赤色のインジケータ) にしきい値をアサインすることもできます。

たとえば、次のように、プログラムの問題の優先度に重みをアサインしたとします。

- 重大: 8
- 高: 5
- 通常: 3
- 低: 1

プログラムの問題の数は次のとおりとします。

- 優先度が「高」の問題が3個
- 優先度が「通常」の問題が2個
- 優先度が「低」の問題6件

これらのプログラムの問題に対して計算される全体のヘルス値は、 $(3 \times 5 + 2 \times 3 + 6 \times 1) = 27$ です。

黄色のヘルスインジケータのしきい値が20で、赤色のヘルスインジケータのしきい値が40の場合、このプログラムの問題には黄色のヘルスインジケータが表示されます。

注: [優先度] リストに表示される値 (名前、表示数) は、検証 Workbenchから変更できません (検証 Workbenchにアクセスするには、PPM Workbenchを開き、ショートカットメニューで [構成] > [検証] を選択します)。

インジケータのデフォルトのしきい値は次のとおりです。

- 赤色: 40
- 黄色: 20
- 緑色: 20未満のすべての値

プログラムの問題の優先度に基づいてアサインされるデフォルトの重みは次のとおりです。

- 重大: 5
- 高: 3
- 通常: 1
- 低: 0

プログラムリスク

リスクにより、プログラムの成功を脅かす脅威を記録および解決できます。起こり得るリスクに関する情報(インパクト、発生の確率など)を収集するプロセスは合理化されています。

プログラム内のプロジェクトについて記録されたリスクは、連携して対応できるように、プログラムレベルで可視化される必要があります。多くの組織では、プログラムマネージャは発生する可能性の高いリスクのみに対応します。

注: HP Program Managementでは、リスクのトラッキングがデフォルトで有効になっています。リスクのトラッキングを無効にするには、[プログラム設定] ページの [プログラムリスク] サブセクションで、[このプログラムのリスクをトラッキング] オプションの横にある [いいえ] を選択し、[保存] をクリックします。

プログラムリスクのヘルスは、特定のリスクレベルおよび可能性に分類されたリスクの数に基づいています。プログラムリスクのヘルスの計算には、プログラムについて直接記録されたリスクと、プログラムに含まれるプロジェクトについて記録されたリスクが使用されます。

プログラムマネージャは、異なるインパクトレベルおよび確率がアサインされたリスクにさまざまな重みをアサインできます。また、黄色と赤色のヘルスインジケータのしきい値も設定できます。

たとえば、リスクのインパクトおよび確率に次の重みをアサインしたとします。

- インパクトレベル1: 7
- インパクトレベル2: 5
- インパクトレベル3: 3
- 確率「高」: 3
- 確率「中」: 2
- 確率「低」: 1

プログラムについて、次のように3つのリスクが記録されています。

- リスク1: インパクトレベル= 1、確率 = 高
- リスク2: インパクトレベル= 2、確率 = 低
- リスク3: インパクトレベル= 3、確率 = 高

インパクトレベルおよび確率に重みを掛けることで、各リスクによる全体のヘルスへの影響が計算されます。この場合、計算されるリスクのヘルス値は $(7 \times 3 + 5 \times 1 + 3 \times 3) = 35$ です。黄色のヘルスのしきい値が20で、赤色のヘルスのしきい値が30の場合、このプログラムのリスクのヘルスには赤色のヘルスインジケータが表示されます。

インジケータのデフォルトのしきい値は次のとおりです。

- 赤色: 40
- 黄色: 20
- 緑色: 20未満のすべての値

リスクのインパクトおよび確率にアサインされるデフォルトの重みは次のとおりです。

- インパクトレベル1: 5
- インパクトレベル2: 3
- インパクトレベル3: 1
- 確率「高」: 5
- 確率「中」: 3
- 確率「低」: 1

プログラムのスコープ変更

スコープの変更により、プログラムおよび個々のプロジェクトのスコープを管理できる状態を維持できます。プログラム内のプロジェクトについて記録されたスコープ変更が大規模な場合や、その他の理由で特に注意が必要な場合、プログラムレベルで可視化される必要があります。

送信したスコープ変更リクエストは評価された後、却下されるか、プログラムまたはプロジェクトのスコープに組み込まれます。プログラムおよびプロジェクトのスコープを制御するには、潜在的な変更を明確に特定、調整、処理する必要があります。

注: HP Program Managementでは、スコープ変更リクエストのトラッキングがデフォルトで有効になっています。スコープ変更リクエストのトラッキングを無効にするには、[プログラム設定] ページの **[プログラムのスコープ変更]** サブセクションで、**[このプログラムのスコープ変更をトラッキング]** オプションの横にある **[いいえ]** を選択し、**[保存]** をクリックします。

スコープ変更ヘルスは、特定の重要度に分類されるスコープ変更の数に基づいています。スコープ変更ヘルスの計算には、プログラム内のプロジェクトについて記録されたオープンされているスコープ変更のみが使用されます。

プログラムマネージャは、異なる重要度を持つスコープ変更にさまざまな重みをアサインできます。また、黄色と赤色のヘルスインジケータのしきい値も設定できます。

たとえば、プログラムのスコープ変更の重要度に次の重みをアサインしたとします。

- 重大: 8
- 高: 5
- 中: 3
- 低: 1

また、プログラムに次のスコープ変更が発生したとします。

- 「重大」のスコープ変更 3件
- 「中」のスコープ変更 2件
- 「低」のスコープ変更 6件

問題に対して計算される全体のヘルス値は、 $(3 \times 8 + 2 \times 3 + 6 \times 1) = 36$ です。黄色のヘルスインジケータのしきい値が20に、赤色のヘルスインジケータのしきい値が40に設定されている場合、プログラムのスコープ変更には黄色のインジケータが表示されます。

プログラムのスコープ変更のヘルスインジケータのデフォルトのしきい値は次のとおりです。

- 赤色: 40
- 黄色: 20
- 緑色: 20未満のすべての値

プログラムのスコープ変更の重要度にアサインされるデフォルトの重みは次のとおりです。

- 重大: 5
- 高: 3
- 中: 1
- 低: 0

注: 問題、リスク、スコープ変更は、プロジェクトマネジメント協会が発行している『A Guide to the Project Management Body of Knowledge』に従ってモデル化されています。

プログラム設定の変更

プログラムのインジケータ設定を変更するには、次の手順を実行します。

1. PPM Centerにログオンします。
2. インジケータ設定を変更するプログラムを開きます。

注: プログラムを検索して開く方法については、「[プログラムの検索](#)」(33ページ)を参照してください。

[プログラムの概要] ページに、選択したプログラムの詳細が表示されます。

3. ページの右上隅にある [詳細] > [プログラム設定] をクリックします。

[プログラム設定] ページが開きます。

Program_01 用のプログラム設定

保存 完了 キャンセル

Financial Management 設定

Financial Management を有効にすると、このプログラムの財務情報を表示できます。

このプログラムの Financial Management を有効にする

Portfolio Management 設定

Portfolio Management を有効にすると、このプログラムをコンテンツとしてポートフォリオに追加できます。

このプログラムの Portfolio Management を有効にする

ヘルス インジケータ

既定値に戻す

プログラムの問題

このプログラムの問題をトラッキング はい いいえ

プログラムの問題ヘルスは、プログラムの問題すべての重みを加算することで決定されます。以下に、問題の重みを優先度を基に指定できます。

優先度	重み
低	<input type="text" value="0"/>
通常	<input type="text" value="1"/>
高	<input type="text" value="3"/>
重大	<input type="text" value="5"/>

ヘルス

このプログラムの問題ヘルスが ▲ となるのは、オープンされているすべての問題の重み合計が次の値以上の場合:

このプログラムの問題ヘルスが ■ となるのは、オープンされているすべての問題の重み合計が次の値以上の場合:

プログラムリスク

このプログラムのリスクをトラッキング はい いいえ

プログラムのリスクヘルスは、プログラムのリスクすべての重みを加算することで決定されます。以下に、リスクの重みをインパクトと可能性を基に指定できます。

インパクト	重み	確率	重み
レベル 1	<input type="text" value="5"/>	高 [26-100%]	<input type="text" value="5"/>
レベル 2	<input type="text" value="3"/>	中 [11-25%]	<input type="text" value="3"/>
レベル 3	<input type="text" value="1"/>	低 [0-10%]	<input type="text" value="1"/>

ヘルス

このプログラムのリスクヘルスが ▲ となるのは、オープンされているすべてのリスクの重み合計が次の値以上の場合:

このプログラムのリスクヘルスが ■ となるのは、オープンされているすべてのリスクの重み合計が次の値以上の場合:

プログラムのスコープ変更

このプログラムのスコープ変更をトラッキング はい いいえ

プログラムのスコープ変更ヘルスは、プログラムのスコープ変更すべての重みを加算することで決定されます。以下に、スコープ変更の重みを重要度を基に指定できます。

重要度	重み
重大	<input type="text" value="5"/>
高	<input type="text" value="3"/>
中	<input type="text" value="1"/>
低	<input type="text" value="0"/>

ヘルス

このプログラムのスコープ変更ヘルスが ▲ となるのは、オープンされているすべてのスコープ変更の重み合計が次の値以上の場合:

このプログラムのスコープ変更ヘルスが ■ となるのは、オープンされているすべてのスコープ変更の重み合計が次の値以上の場合:

保存 完了 キャンセル

- このプログラムに対してHP Financial Managementを有効にするには、[Financial Management設定]の下で[このプログラムのFinancial Managementを有効にする]チェックボックスを選択します。
- このプログラムに対してHP Portfolio Managementを有効にするには、[Portfolio Management設

定]の下で**[このプログラムのPortfolio Managementを有効にする]**チェックボックスを選択します。HP Portfolio Managementを有効にすることで、プログラムをコンテンツとしてポートフォリオに追加できるようになります。

注: プログラムをコンテンツとしてポートフォリオに追加した場合、このチェックボックスは選択した状態のままにする必要があります。このチェックボックスの選択を解除すると、プログラム設定を保存できません。

注: 複数の提案/プロジェクト/資産がある状態で、[プログラム設定] ページでこのプログラムのPortfolio Managementを有効にすると、データ入力エラーメッセージを受信する場合があります。このメッセージには、競合するすべてのエンティティとエンティティが属するプログラム/ポートフォリオの名前が次の形式で記載されています。

資産/プロジェクト/提案 "X" は、ポートフォリオ/ポートフォリオが有効なプログラム "Y" に含まれています。

6. プログラムの問題のヘルスは、オープンされているすべてのプログラムの問題の重みを合計することで決定されます。優先度に基づき、問題に相対的な重みをアサインできます。

プログラムの問題のヘルスインジケータを有効化して設定するには、[プログラムの問題] セクションで次の手順を実行します。

- a. プログラムの問題をトラッキングするには、[このプログラムの問題をトラッキング] で [はい] が選択された状態のままにします。
- b. プログラムの優先度に対する重みの値を変更するには、[重み] フィールドにそれぞれの優先度に対する新しい重みの値を入力します。デフォルト値は次のとおりです。
 - 低 = 0
 - 通常 = 1
 - 高 = 3
 - 重大 = 5

プログラムのヘルスを計算するため、オープンされているすべてのプログラムの問題の重みが合計されます。問題の数と重要度が要注意レベルに達したときに、警告 (黄色) および重大 (赤色) のインジケータを表示するためのしきい値を設定できます。

- c. プログラムの問題の警告のしきい値を変更するには、[ヘルス] の下にある黄色のインジケータの横に新しい値を入力します (デフォルト値は20)。
- d. プログラムの問題の重大のしきい値を変更するには、[ヘルス] の下にある赤色のインジケータの横に新しい値を入力します (デフォルト値は40)。

7. プログラムリスクのヘルスは、オープンされているすべてのプログラムリスクの重みを合計することで決定されます。インパクトと確率に基づき、リスクに相対的な重みをアサインできます。

プログラムリスクのヘルスインジケータを設定するには、[プログラムリスク] セクションで次の手順を実行します。

- a. プログラムリスクをトラッキングするには、[このプログラムのリスクをトラッキング] で [はい] が選択された状態のままにします。
 - b. インパクトレベルに対する重みの値を変更するには、それぞれのインパクトレベルに新しい数値を入力します。インパクトレベルのデフォルト値は次のとおりです。
 - レベル1= 5
 - レベル2= 3
 - レベル3= 1
 - c. 確率の値に対する重みの値を変更するには、それぞれの確率に新しい数値を入力します。確率の値のデフォルト値は次のとおりです。
 - 高 [26-100%]= 5
 - 中 [11-25%]= 3
 - 低 [0-10%]= 1
 - d. プログラムリスクの警告の値 (黄色) を変更するには、[ヘルス] の下で新しい値を入力します (デフォルト値は20)。
 - e. プログラムリスクの重大の値 (赤色) を変更するには、[ヘルス] の下で新しい値を入力します (デフォルト値は40)。
8. プログラムのスコープ変更ヘルスは、オープンされているすべてのプログラムのスコープ変更の重みを合計することで決定されます。異なる重要度を持つスコープ変更にさまざまな重みをアサインできます。

プログラムのスコープ変更のヘルスインジケータを有効化して設定するには、[プログラムのスコープ変更] セクションで次の手順を実行します。

- a. プログラムのスコープ変更をトラッキングするには、[このプログラムのスコープ変更をトラッキング] で [はい] が選択された状態のままにします。
- b. スコープ変更の重要度に対する重みの値を変更するには、それぞれの重要度に新しい数値を入力します。デフォルト値は次のとおりです。
 - 重大 = 5
 - 高 = 3

- o 通常 = 1
 - o 低 = 0
- c. プログラムのスコープ変更の警告の値 (黄色) を変更するには、新しい値を入力します (デフォルト値は20)。
- d. プログラムのスコープ変更の重大の値 (赤色) を変更するには、新しい値を入力します (デフォルト値は40)。
9. インジケータ設定への変更を保存し、[プログラム設定] ページを閉じるには、[完了] をクリックします。

プログラムアクセスの設定

組織では通常、一部の内部情報やビジネスプロセスへのアクセスを制御しています。これは、給与などの機密情報を保護すること、またはユーザによっては無用なデータを隠すことでビジネスプロセスをシンプルにすることを目的としています。HP Program Managementのデータアクセスには、2つのレベルがあります。

- プログラムアクセス
- コストアクセス

プログラムアクセスおよびコストアクセスの設定は、[アクセスの設定] ページでプログラムごとに行います。

プログラムへのアクセスを編集または更新するには、次の手順を実行します。

1. PPM Centerにログオンします。
2. プログラムを開きます。

注: プログラムを検索して開く方法については、「[プログラムの検索](#)」(33ページ)を参照してください。

[プログラムの概要] ページに、プログラム情報が表示されます。

3. ページの右上隅にある [詳細] > [アクセスの設定] をクリックします。

[アクセスの設定] ページが開きます。

Program_01 のアクセスの設定 保存 完了 キャンセル

プログラムアクセス
Admin User、このプログラムのプログラム マネージャの他に、表示アクセス権限を付与する対象:

- なし
- このプログラム内のすべてのコンテンツ マネージャ
- その他のすべてのプログラム マネージャ
- その他のすべてのプログラム マネージャ、およびこのプログラム内のコンテンツ マネージャ
- これらのセキュリティグループのみ:

セキュリティグループ

[セキュリティグループの追加](#)

注記: このプログラムを削除できるのは、このプログラムのプログラム マネージャだけです。

コストとベネフィット アクセス
Admin User、このプログラムのプログラム マネージャの他に、表示アクセス権限を付与する対象:

- なし
- このプログラム内のすべてのコンテンツ マネージャ
- その他のすべてのプログラム マネージャ
- その他のすべてのプログラム マネージャ、およびこのプログラム内のコンテンツ マネージャ
- これらのセキュリティグループのみ:

セキュリティグループ

[セキュリティグループの追加](#)

保存 完了 キャンセル

4. **[プログラムアクセス]** セクションで、プログラムへのアクセスを付与する対象として次のいずれかを選択します。

- なし
- このプログラム内のすべてのコンテンツマネージャ
- その他のすべてのプログラムマネージャ
- すべてのプログラムマネージャ、およびこのプログラム内のコンテンツマネージャ
- これらのセキュリティグループのみ

注: 実質的には、プログラムマネージャは **[プログラムの編集]** (または **[すべてのプログラムの編集]**) のアクセス許を持っている任意のユーザです。ユーザがプログラムマネージャにアサインされていても、必要なアクセス許を持っていなければ、プログラムを管理することはできません。

[プログラムアクセス] セクションで **[なし]** が選択されていても、**[すべてのプログラムの編集]** のアクセス許を持っているユーザはプログラムへのフルアクセス権をすでに持っています。

5. **[これらのセキュリティグループのみ]** を選択した場合、次の手順を実行します。

a. **[セキュリティグループ]** の下で、**[セキュリティグループの追加]** をクリックします。

選択 ウィンドウが開きます。

- b. セキュリティグループを選択するには、セキュリティグループの名前を選択します。

選択ウィンドウが閉じ、[セキュリティグループ] セクションに選択したセキュリティグループの名前がリストされます。

注: [アクセスの設定] ページからリストされているセキュリティグループを削除するには、名前の左側にある [削除] アイコンをクリックします。

別のセキュリティグループを追加するには、[セキュリティグループの追加] を再度クリックします。

6. [コストとベネフィットアクセス] セクションは、そのプログラムに対してHP Financial Managementが有効になっている場合に使用します。プログラムのコストデータに表示アクセス権をアサインするには、次のいずれかを選択します。

- なし
- このプログラム内のすべてのコンテンツマネージャ
- その他のすべてのプログラムマネージャ
- すべてのプログラムマネージャ、およびこのプログラム内のコンテンツマネージャ
- これらのセキュリティグループのみ

注: デフォルトでは、プログラムマネージャはプログラムへのフルアクセス権を持っています。

7. [これらのセキュリティグループのみ] を選択した場合、次の手順を実行します。

- a. [セキュリティグループ] の下で、[セキュリティグループの追加] をクリックします。

選択ウィンドウが開きます。

- b. セキュリティグループを選択するには、セキュリティグループの名前を選択します。

選択ウィンドウが閉じ、[セキュリティグループ] セクションに選択したセキュリティグループの名前がリストされます。

注: [アクセスの設定] ページからリストされているセキュリティグループを削除するには、名前の左側にある [削除] アイコンをクリックします。

別のセキュリティグループを追加するには、[セキュリティグループの追加] を再度クリックします。

8. 更新内容を保存し、[アクセスの設定] ページを閉じるには、[完了] をクリックします。

プログラムの優先度の更新

時間が経って、ビジネス目標の中で達成したものと未達成のものがあったら、組織で進行中のプログラムの優先度を変更できます。優先度を変更することで、利害関係者は最も重大な問題について高い可視性を維持できます。

組織のほかのプログラムに対する相対的な優先度を変更するには、次の手順を実行します。

1. PPM Centerにログオンします。
2. メニューバーから、[開く] > [Program Management] > [プログラムの優先順位付け] を選択します。

[プログラムの優先順位付け] ページが開き、既存のプログラムがリストされます。プログラムに優先度の値がアサインされている場合、このページには優先度の降順でプログラムがリストされます。

プログラムの優先順位付け 保存

プログラム名	相対的優先度	プログラム マネージャ	プログラムのステータス	ビジネス目標	説明
test_program	<input type="text" value="1"/>	Admin User	新規		
test_program2	<input type="text" value="2"/>	Admin User	新規		

保存

3. プログラム名の右側にある[相対的優先度]フィールドに、新しい優先度レベルを示す整数を入力します。
4. 必要な場合、リストされているほかのプログラムの相対的優先度の値を変更します。
5. [保存] をクリックします。

プログラム参照の追加

本項では、プログラムに追加できる参照のタイプについて説明します。添付ファイル、既存パッケージ、新規パッケージ、プロジェクト、既存リクエスト、新規リクエスト、タスク、URLなどがあります。

参照としての添付ファイル

プログラム参照として、添付ファイルを指定できます。

添付ファイルを参照するには、次の手順を実行します。

1. プログラムを開きます。

注: プログラムを検索して開く方法については、「[プログラムの検索](#)」(33ページ)を参照してください。

2. **[参照]** セクションまでスクロールします。
3. **[新規参照]** リストで **[添付ファイル]** (デフォルト) を選択したまま、**[追加]** をクリックします。

[ドキュメントの追加] ウィンドウが開きます。

ドキュメントの追加

* **ファイル:**

選択されていません

作者:

説明:

4. **[ファイル]** フィールドに、参照として追加するファイルの完全なパスを入力します。

注: 添付ファイルはワークステーションからアクセス可能である必要があります。

5. **[作者]** フィールドに、添付ファイルの作者名を入力します。
6. **[説明]** フィールドに、添付ファイルに関する情報と参照する理由を入力します。
7. **[追加]** をクリックします。

指定したファイルがアップロードされます。[プログラムの概要] ページの**[参照]** セクションで、**[保存時に追加される参照]** フィールドにファイル名が表示されます。

8. **[保存]** をクリックします。

参照としての既存パッケージ

プログラムに既存のパッケージを参照させることができます。

既存のパッケージを参照するには、次の手順を実行します。

1. PPM Dashboardからプログラムを開きます。

注: プログラムを検索して開く方法については、「[プログラムの検索](#)」(33ページ)を参照してください。

2. [参照] セクションまでスクロールします。
3. [新規参照] リストで、[パッケージ (既存)] を選択します。
4. [追加] をクリックします。

[参照の追加: パッケージ] ウィンドウが開きます。

5. 検索基準を指定し、[検索] をクリックします。

参照の追加: パッケージ

選択したパッケージのプログラム番号 30042 に対するリレーションシップを選択:

- このプログラム関連 - (情報) - 選択したパッケージはプログラム 30042 に関連付けられています

パッケージ検索結果							
	パッケージ番号 ▼	ワークフロー	ステータス	優先度	アサイン先	パッケージ行	説明
<input type="checkbox"/>	30042	開発->テスト->本番	新規	低			
<input type="checkbox"/>	30041	開発->テスト->本番2	新規	低			

すべてチェック すべてクリア

追加 検索の変更 キャンセル

[参照の追加: パッケージ] ウィンドウに、検索基準に一致するリレーションシップタイプとパッケージがリストされます。

6. リレーションシップタイプとパッケージを選択し、[追加] をクリックします。

[保存時に追加される参照] セクションに、選択したパッケージがリストされます。

7. [保存] をクリックします。

参照としての新規パッケージ

新規のパッケージをプログラム参照として追加できます。

新規パッケージを参照するには、次の手順を実行します。

1. PPM Dashboardからプログラムを開きます。

注: プログラムを検索して開く方法については、「プログラムの検索」(33ページ)を参照してください。

2. [参照] セクションまでスクロールします。
3. [新規参照] リストで、[パッケージ (新規)] を選択します。

4. **[追加]** をクリックします。

[新規パッケージの作成] ウィンドウが開きます。

新規パッケージの作成

リレーションシップ:

●このプログラム関連 - (情報) - 選択したパッケージはプログラム 30020に関連付けられています

作成

キャンセル

5. リレーションシップを選択し、**[作成]** をクリックします。

[新規パッケージ] ウィンドウが開きます。

6. パッケージ情報を入力し、**[追加]** をクリックします。

[保存時に追加される参照] セクションに、新規パッケージがリストされます。パッケージの詳細については、『HP Deployment Managementユーザーガイド』を参照してください。

7. プログラムにパッケージを添付するため、**[保存]** をクリックします。

参照としてのプロジェクト

既存のプロジェクトをプログラム参照として添付するには、次の手順を実行します。

1. PPM Dashboardからプログラムを開きます。

注: プログラムを検索して開く方法については、「[プログラムの検索](#)」(33ページ)を参照してください。

2. **[参照]** セクションまでスクロールします。
3. **[新規参照]** リストで、**[プロジェクト]** を選択します。
4. **[追加]** をクリックします。

[参照の追加: プロジェクト] ウィンドウが開きます。

参照の追加: プロジェクト

表示するプロジェクトの検索

プロジェクト名(含む):

プロジェクトタイプ:

計画開始日が次の日から: 次の日まで:

計画終了日が次の日から: 次の日まで:

終了したプロジェクトを含める: はい いいえ

ヘルス:

プロジェクトマネージャ:

関連付けられたプログラム:

地域:

ソート基準: 昇順 降順 ページ当たりの表示結果数:

5. 検索基準を指定し、[検索]をクリックします。

参照の追加: プロジェクト

* 選択したプロジェクトの null 番号 30020 に対するリレーションシップを選択:

◎ このプログラム関連 - (情報) - 選択したプロジェクトはプログラム 30020 に関連付けられています

表示するプロジェクトの選択

	プロジェクト名 ▲	ステータス	プロジェクトマネージャ	プロジェクト番号	地域	プロジェクトタイプ	プロジェクトの開始(期間)	プロジェクトの終了(期間)
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> test_project	計画中	Admin User	30123	Enterprise	企業	May 2013	June 2013
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> test_project2	計画中	Admin User	30124	Enterprise	企業	August 2013	September 2013
<input type="checkbox"/>	すべてを選択							

6. プロジェクト参照として追加するプロジェクトを見つけて選択します。

7. [追加]をクリックします。

8. [保存時に追加される参照]セクションに、選択したプロジェクトがリストされます。

9. プログラムにプロジェクトを添付するため、[保存]をクリックします。

参照としての既存リクエスト

関連付けられているプロジェクトをプログラムにリンクせずに、プロジェクトリスク、スコープ変更、問題をプログラムに直接関連付けることができます。プログラム参照として添付したプロジェクトリクエストは、[プログラムの概要] ページの対応するセクション ([問題]、[スコープ変更]、[リスク] の棒グラフ) に表示されます。プログラムヘルスに影響するのは、プログラムに直接リンクされているプロジェクトから送信されたものである場合のみです。

プログラムに既存リクエストを参照させるには、次の手順を実行します。

1. PPM Dashboardからプログラムを開きます。

注: プログラムを検索して開く方法については、「[プログラムの検索](#)」(33ページ)を参照してください。

2. **[参照]** セクションまでスクロールします。
3. **[新規参照]** リストで、**[リクエスト (既存)]** を選択します。
4. **[追加]** をクリックします。

[参照の追加: リクエスト] 検索 ウィンドウが開きます。

5. 検索基準を指定し、**[検索]** をクリックします。

参照の追加: リクエスト

選択したリクエストのプログラム番号 30042に対するリレーションシップを選択:

● このプログラム関連 - (情報) - 選択したリクエストはプログラム 30042に関連付けられています

リクエスト検索結果								< 1 - 6 を表示 >
	リクエスト番号 ▼	リクエストタイプ	説明	ステータス	アサイン先	優先度	作成者	
<input type="checkbox"/>	30183	DEM - アプリケーション機能拡張	test	機能仕様待ち		通常	Admin User	
<input type="checkbox"/>	30166	プロジェクトのスコップ変更リクエスト	test	決定待ち	Admin User	低	Admin User	
<input type="checkbox"/>	30164	PFM - 資産		アプリケーション データの入力			Admin User	
<input type="checkbox"/>	30163	PFM - 資産		アプリケーション データの入力			Admin User	
<input type="checkbox"/>	30161	PFM - 提案		新規			Admin User	
<input type="checkbox"/>	30157	プログラムリスク	test	オープン	Admin User		Admin User	

すべてチェック すべてクリア < 1 - 6 を表示 >

追加 検索の変更 キャンセル

ウィンドウに、選択するリクエストとプログラムの関係を示すリレーションシップタイプと、検索基準に一致するリクエストが表示されます。

6. リレーションシップタイプと参照として追加するリクエストを選択します。
7. **[追加]** をクリックします。

[保存時に追加される参照] セクションに、選択したリクエストがリストされます。

8. プログラムにリクエストを添付するため、**[保存]** をクリックします。

参照としての新規リクエスト

プログラム参照として新規のリクエストを追加するには、次の手順を実行します。

1. PPM Dashboardからプログラムを開きます。

注: プログラムを検索して開く方法については、「[プログラムの検索](#)」(33ページ)を参照してください。

2. **[参照]** セクションまでスクロールします。
3. **[新規参照]** リストで、**[リクエスト (新規)]** を選択します。
4. **[追加]** をクリックします。

[新規リクエストの作成] ウィンドウが開きます。

新規リクエストの作成

リクエストタイプ:

リレーションシップ:

このプログラム関連 - (情報) - 選択したリクエストはプログラム 30062に関連付けられています

作成

キャンセル

5. **[リクエストタイプ]** フィールドで、リクエストタイプを選択します。
6. **[リレーションシップ]** で、参照された新規リクエストとプログラムの関係を示すリレーションシップオプションを選択します。
7. **[作成]** をクリックします。

[新規作成] ウィンドウが開きます。

8. リクエストを作成するために必要な情報を入力します。

注: リクエストの作成方法については、『HP Demand Managementユーザーガイド』を参照してください。

[保存時に追加される参照] セクションに、新規リクエストがリストされます。

9. プログラムに新規リクエストを添付するため、**[保存]** をクリックします。

参照としてのタスク

既存のタスクをプログラム参照として追加できます。

既存のタスクを参照させるには、次の手順を実行します。

1. PPM Dashboardからプログラムを開きます。

注: プログラムを検索して開く方法については、「[プログラムの検索](#)」(33ページ)を参照してください。

2. **[参照]** セクションまでスクロールします。
3. **[新規参照]** リストで、**[タスク]** を選択します。
4. **[追加]** をクリックします。




[参照の追加: タスク] 検索 ウィンドウが開きます。

5. 検索基準を指定し、**[検索]** をクリックします。

ウィンドウに、検索基準に一致するリレーションシップタイプとタスクがリストされます。

参照の追加: タスク

- 選択したタスクの null 番号 30042 に対するリレーションシップを選択:
- このプログラム関連 - (情報) - 選択したタスクはプログラム 30042 に関連付けられています

表示するタスクの選択									< 1 - 4 / 13 を表示 >
<input type="checkbox"/>	タスク名 ▲	プロジェクト	プロジェクトパス	スケジュールされた開始日	スケジュールされた終了日	タスクステータス	リソース	例外インジケータ	達成率 (%)
<input type="checkbox"/>	Billing Systems Integration	Project_01	Project_01	Oct 22, 2014	Oct 23, 2014	進行中		!	80% 
<input type="checkbox"/>	cxZ	Prj_001	Prj_001:Project_01	Oct 22, 2014	Oct 22, 2014	進行中			50% 
<input type="checkbox"/>	cZXCZXC	Prj_001	Prj_001:Project_01	Oct 22, 2014	Oct 23, 2014	進行中			80% 
<input type="checkbox"/>	Development Activities	test	test	Oct 1, 2014	Oct 1, 2014	準備完了			0% 
<input type="checkbox"/>	すべてを選択								

6. ページの上部で、タスクとプログラムのリレーションシップタイプを選択します。
7. **[追加]** をクリックします。

[保存時に追加される参照] セクションに、参照されるタスクが表示されます。

8. プログラムに参照を添付するため、**[保存]** をクリックします。

参照としてのURL

プログラムに既存のURLを参照させることができます。

URLをプログラム参照として指定するには、次の手順を実行します。

1. PPM Dashboardからプログラムを開きます。

注: プログラムを検索して開く方法については、「[プログラムの検索](#)」(33ページ)を参照してください。

2. [参照] セクションまでスクロールします。
3. [新規参照] リストで、[URL] を選択します。
4. [追加] をクリックします。

[参照URL] ウィンドウが開きます。

参照 URL

*URL: URL の表示

説明:

OK

キャンセル

5. [URL] フィールドに、URLを入力します。
6. [説明] フィールドに、URL情報を入力します。
7. [OK] をクリックします。

[保存時に追加される参照] セクションに、URLが表示されます。

8. プログラムに参照を添付するため、[保存] をクリックします。

Microsoft Excelへのプログラムのエクスポート

[プログラムの概要] ページをMicrosoft Excelファイルにエクスポートするには、次の手順を実行します。

1. Microsoft Internet Explorerバージョン7を使用している場合、インターネットオプションが正しく設定されていることを確認します。詳細については、『スタートアップガイド』を参照してください。

2. エクスポートするプログラムを開きます。

プロジェクトの検索と開き方の詳細については、「[プログラムの検索](#)」(33ページ)を参照してください。

3. [プログラムの概要] ページで、[Microsoft Excel] アイコンをクリックします。

新しいウィンドウが開き、エクスポートが完了するまで設定された間隔でリフレッシュされます。

4. エクスポートしたExcelファイルを保存します。

注: [プログラムの概要] ページの右上隅にある [Excelにエクスポート] リンクをクリックすると、[コンテンツ] セクションに表示されている列のみが、その表示順序でExcelにエクスポートされます。つまり、Microsoft Excelファイルには、表示するように選択した列と列のレイアウトに対する変更が反映されます。

第5章: プログラムの管理

- 「HP Program Managementの管理の概要」(65ページ)
- 「問題の管理」(65ページ)
- 「リスクの管理」(71ページ)
- 「スコープ変更の管理」(76ページ)
- 「プログラムプロセスの管理」(80ページ)

HP Program Managementの管理の概要

プログラムの有効期間中には、次のようにさまざまなことが起こります。

- リスクが増大する
- プログラムのプロジェクトスコープが変更される
- 問題が発生する
- 関連付けられているプロジェクトがまとめて終了、停止、キャンセルされる
- ビジネス目標が変更される、または古くなる
- 参照が無効になる、または何らかの変更が加えられる

HP Program Managementでは、これらのイベントは次のとおり分類されます。

- プログラムおよびプロジェクトの問題
- リスク
- スコープ変更

本章では、プログラムや影響を及ぼすイベントの管理方法について説明します。

問題の管理

問題により、プログラムの有効期間中に発生した懸念事項を、トラッキングとレポートが可能なリクエストを使用して特定および解決できます。プログラムについて問題を直接送信するか、プログラムにリンクされているプロジェクトについて送信した問題をエスカレーションすることができます。このようにすることで、プロ

ジェクトマネージャはプロジェクトレベルの問題に対応し、プログラムレベルでの対応が必要な問題のみをエスカレーションすることができます。

本項では、HP Program Managementでプログラムおよびプロジェクトの問題をトラッキングおよび分析する方法について説明します。問題を送信する方法については、「[プログラムの問題の送信](#)」(17ページ)を参照してください。

プログラムの問題の検索

プログラムの問題を検索するには、次の手順を実行します。

1. PPM Centerにログオンします。
2. メニューバーから、**[検索]** > **[プログラムの問題]** を選択します。

[リクエストの検索] ページが開きます。[リクエストタイプ] リストで**[プログラムの問題]** が選択されています。

3. リクエストの検索基準を入力し、**[検索]** をクリックします。

[リクエスト検索結果] セクションに、検索基準に一致するプログラムの問題がリストされます。

The screenshot shows the search results interface. At the top, there are buttons for 'Excelにエクスポート' and '検索の変更'. Below that, a search criteria section includes a text input field, a '保存' button, and a '保存済み検索の管理' button. The main section is titled 'リクエスト検索結果' and contains a table with one row of results. The table has columns for 'リクエスト番号', 'リクエストタイプ', '説明', 'ステータス', 'アサイン先', '優先度', and '作成者'. Below the table are buttons for 'すべてチェック', 'すべてクリア', '編集', and '削除', along with a pagination control showing '1-1を表示'.

リクエスト番号 ▼	リクエストタイプ	説明	ステータス	アサイン先	優先度	作成者
30131	プログラムの問題	test	新規		低	Admin User

4. **[リクエスト番号]** 列のエントリをクリックし、対応するプログラムの問題リクエストを開きます。

[プログラムの問題] ページが開きます。

プログラムの問題 30131 - test ステータス: 新規

問題のレビューとアサイン (ステップ Timeout. 以下のアクションでオーバーライド)

アサイン レビュー 保留中 キャンセル 保存 コピー 詳細

すべて展開する | すべて折りたたむ

- サマリー

問題番号:	30131	問題ステータス:	新規
作成者:	Admin User	作成日時:	2014/10/07
*プログラム:	Program_01		
*優先度:	低	アサイン先:	
*説明:	test		

- 問題の詳細

*特定日:	2014/10/07	期日:	
問題タイプ:			
詳細な説明:			
提案された解決:			
ビジネス機能:			

+ メモ (メモが存在しません)

+ ステータス

+ 参照 1 参照が存在します

5. 必要に応じて、[プログラムの問題] ページのフィールドの値を編集し、[保存] をクリックします。

プロジェクトの問題の検索

プロジェクトの問題を検索するには、次の手順を実行します。

1. PPM Centerにログオンします。
2. メニューバーから、[検索] > [プロジェクトの問題] を選択します。

[リクエストの検索] ページが開きます。[リクエストタイプ] リストで [プロジェクトの問題] がすでに選択されています。

3. リクエストの検索基準を入力し、[検索] をクリックします。

[リクエスト検索結果] セクションに、検索基準に一致するプロジェクトの問題がリストされます。

Excelにエクスポート 検索の変更

次の名前での検索を保存: 保存 保存済み検索の管理

リクエスト検索結果 1-5を表示

リクエスト番号	リクエストタイプ	説明	ステータス	アサイン先	優先度	作成者	アサイン先グループ	リクエストサブタイプ
<input type="checkbox"/> 30134	プロジェクトの問題	test	新規	Admin User	低	Admin User		
<input type="checkbox"/> 30133	プロジェクトの問題	test	新規		低	Admin User		
<input type="checkbox"/> 30132	プロジェクトの問題	test	新規		低	Admin User		
<input type="checkbox"/> 30130	プロジェクトの問題	test	新規		通常	Admin User		
<input type="checkbox"/> 30129	プロジェクトの問題	test	新規		低	Admin User		

すべてチェック すべてクリア 編集 削除 1-5を表示

Excelにエクスポート 検索の変更

4. リストされているプロジェクトの問題を開くには、[リクエスト番号] 列でリクエスト番号をクリックします。

[プロジェクトの問題] ページが開きます。

プロジェクトの問題 30132 - Deploy to alpha test starts ステータス: 新規

問題のレビューとアサイン

アサイン レビュー 保留中 キャンセル 保存 コピー 詳細

すべて展開する | すべて折りたたむ

サマリ

問題番号:	30132	問題ステータス:	新規		
作成者:	Admin User	作成日時:	2013/04/10	アサイン先:	Admin User
プロジェクト:	test				
優先度:	低	エスカレーションレベル:	プロジェクト		
説明:	Deploy to alpha test starts				

問題の詳細

特定日:	2013/04/10	期日:	
問題タイプ:			
詳細な説明:			
提案された解決:			
ビジネス機能:			

+ メモ (メモが存在しません)

+ ステータス

+ 参照 1 参照が存在します

5. 必要な変更を行い、[保存]をクリックします。

問題アクティビティの分析

HP Program Managementでは、問題アクティビティのグラフで、指定した期間の毎月 (または毎週) の問題の作成数と解決数を確認できます。

問題アクティビティを表示するには、次の手順を実行します。

1. PPM Centerにログオンします。
2. メニューバーから、[開く] > [Program Management] > [問題] > [問題アクティビティの分析] を選択します。

[問題アクティビティ: 作成と解決の時間変化] ページが開きます。

3. [フィルタ基準] セクションで、次の情報を入力します。

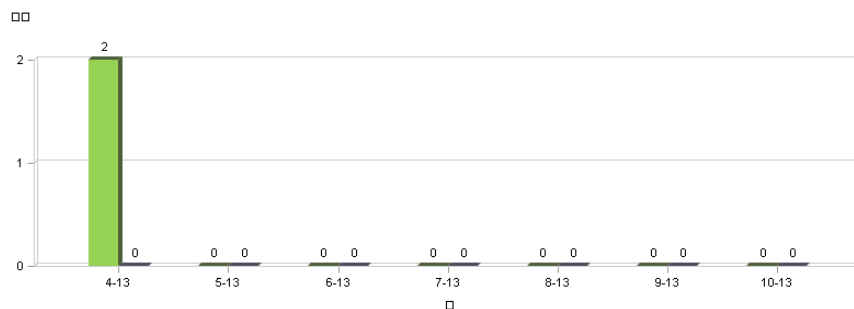
フィールド名	説明
表示	表示するリクエストタイプ。デフォルトの選択 ([問題]) のままにします。
プログラム名	問題解決情報を表示するプログラムの名前。
プロジェクト	(エスカレーションされた) 問題の情報を表示するために選択したプログラムにリンクされているプロジェクトの名前。[プロジェクト] フィールドを空白にすると、そのプログラムにリンクされているすべてのプロジェクトからプログラムレベルにエスカレーションされた問題の問題解決時間の情報が表示されます。
解決日が次の日から / 次の日まで	問題解決情報を表示する日付範囲。
期間	問題解決情報を表示するために使用する時間単位。[月] (デフォルトの選択) または [週] を選択します。

4. [適用] をクリックします。

[問題 アクティビティ: 作成と解決の時間変化] ページに結果が表示されます。

問題 アクティビティ: 作成と解決の時間変化

問題 期間 test_program 次の 1 月当たりの作成、および解決 問題 数: April 1, 2013 ~ October 31, 2013



フィルタ基準 適用

*表示:

*プログラム名:

プロジェクト:

解決日が次の日から: *次の日まで: (最大 12 期間が表示されます)

期間:

適用

このページのグラフに、指定したプログラムと日付範囲を対象として、プログラムレベルにエスカレーションされたプログラムの問題およびプロジェクトの問題の作成数および解決数が示されます。

問題解決時間の分析

HP Program Managementのグラフで、送信された問題 (プログラムレベルにエスカレーションされたプログラムの問題およびプロジェクトの問題) の解決にどれくらい時間がかかったかを確認できます。

問題解決時間を分析するには、次の手順を実行します。

1. PPM Centerにログオンします。
2. メニューバーから、[開く] > [Program Management] > [問題] > [問題解決時間の分析] を選択します。

[問題解決: 平均解決時間] ページが開きます。

3. [フィルタ基準] セクションで、次の情報を入力します。

フィールド名	説明
表示	表示するリクエストタイプ。デフォルトの選択 ([問題]) のままにします。
プログラム名	問題解決情報を表示するプログラムの名前。
プロジェクト	(エスカレーションされた) 問題の情報を表示するために選択したプログラムにリンクされているプロジェクトの名前。[プロジェクト] フィールドを空白にすると、そのプログラムにリンクされているすべてのプロジェクトからプログラムレベルにエスカレーションされた問題の問題解決時間の情報が表示されます。
解決日が次の日から / 次の日まで	問題解決情報を表示する日付範囲。問題リクエストの送信時刻は、問題解決時間の計算に使用されます。
期間	問題解決情報を表示するために使用する時間単位。[月] (デフォルトの選択) または [週] を選択します。

4. [適用] をクリックします。

HP Program Managementのグラフに、指定した期間を対象として、解決された問題の解決に要した平均日数が表示されます。ここには、プログラムレベルにエスカレーションされたプログラムの問題およびプロジェクトの問題が含まれます。

リスクの管理

プロジェクトおよびプログラムリスクにより、トラッキングとレポートが可能なリクエストを使用してリスクを特定および解決できます。リスクをエスカレーションすることで、プロジェクトがリンクされているプログラムでそのリスクを表示できるようになります。

本項では、リスクを検索し、リスクアクティビティおよびリスク解決を表示する方法について説明します。リスクリクエストを送信する方法については、「[プログラムレベルのリスクの送信](#)」(23ページ)および「[プロジェクトリスクの送信](#)」(26ページ)を参照してください。

プロジェクトリスクの検索

プロジェクトリスクを検索するには、次の手順を実行します。

1. PPM Centerにログオンします。
2. メニューバーから、**[検索]** > **[プロジェクトリスク]** を選択します。

[リクエストの検索] ページが開きます。**[表示するリクエストの検索]** の下の **[リクエストタイプ]** フィールドで、**[プロジェクトリスク]** が選択されています。

3. **[表示するリクエストの検索]** セクションで、リクエストの検索基準を指定します。
4. 検索結果の表示を設定するには、**[列の選択]** セクションで **[利用できる列]** フィールドと **[選択した列]** フィールドの間で項目を移動します。
5. **[検索]** をクリックします。

[リクエスト検索結果] セクションに、検索基準に一致するプロジェクトリスクがリストされます。

Excelにエクスポート 検索の変更

次の名前での検索を保存: 保存 保存済み検索の管理

リクエスト検索結果 < 1 - 50 / 145 を表示 >

<input type="checkbox"/>	リクエスト番号 ▼	リクエストタイプ	説明	部署	作成者
<input type="checkbox"/>	34187	Project Risk	Schedule might be delayed because passed requirements are too little.		Admin User
<input type="checkbox"/>	34186	Project Risk	Certificado no es valido		Admin User
<input type="checkbox"/>	33111	Project Risk	Inclusion of new corporate acquisition could delay project release		Joseph Banks
<input type="checkbox"/>	33110	Project Risk	Likely cost overrun due to scope change		Joseph Banks
<input type="checkbox"/>	33109	Project Risk	Delay of dependent project's release date.		Joseph Banks
<input type="checkbox"/>	33108	Project Risk	Poor communications between business units making standardization difficult		Joseph Banks
<input type="checkbox"/>	33107	Project Risk	Resource risk – few candidates with proper skill mix.		Joseph Banks
<input type="checkbox"/>	33106	Project Risk	New Corporate Acquisition may impact requirements		Joseph Banks

すべてチェック すべてクリア 編集 ▼ 削除 Dynamic Graphing < 1 - 50 / 145 を表示 >

Excelにエクスポート 検索の変更

6. プロジェクトリスクリクエストを開くには、**[リクエスト番号]** 列でリクエスト番号をクリックします。

[プロジェクトリスク] ページが開きます。

プロジェクトリスク 34187 - Schedule might be delayed because passed requirements ar... ステータス: 新規

保存 コピー 詳細

すべて展開する | すべて折りたたむ

- サマリ

リスク番号: 34187	リスク ステータス: 新規	アサイン先: <input type="text"/>
作成者: Admin User	作成日時: 2013/04/19	
プロジェクト: <input type="text" value="VPQ Demo project"/>		
優先度: <input type="text"/>	リスク インパクト レベル: <input type="text" value="Medium"/>	可能性: <input type="text" value="Likely [41-80%]"/>
説明: <input type="text" value="Schedule might be delayed because passed requirements are too little."/>		

- リスクの詳細

リスク タイプ: <input type="text"/>	特定日: <input type="text" value="November 8, 2012"/>
詳細な説明: <input type="text"/>	
クローズ基準: <input type="text"/>	
アクション計画: <input type="text"/>	

- メモ

- メモの追加

保存時に追加されるメモ:

+ 参照

7. プロジェクトリスクリクエストに必要な変更を行い、[保存] をクリックします。

プログラムリスクの検索

プログラムリスクを検索するには、次の手順を実行します。

1. PPM Centerにログオンします。
2. メニューバーから、[検索] > [プログラムリスク] を選択します。

[リクエストの検索] ページが開きます。[表示するリクエストの検索] の下の[リクエストタイプ] フィールドで、[プログラムリスク] が選択されています。

3. [表示するリクエストの検索] セクションで、リクエストの検索基準を指定します。
4. 検索結果の表示を設定するには、[列の選択] セクションで[利用できる列] フィールドと[選択した列] フィールドの間で項目を移動します。
5. [検索] をクリックします。

[リクエスト検索結果] セクションに、検索基準に一致するプログラムリスクがリストされます。

6. プログラムリスクリクエストを開くには、[リクエスト番号] 列でリクエスト番号をクリックします。
[プログラムリスク] ページが開きます。
7. プログラムリスクリクエストに必要な変更を行い、[保存] をクリックします。

リスクアクティビティの分析

リスクアクティビティを分析するには、次の手順を実行します。

1. PPM Centerにログオンします。
2. メニューバーから、[開く] > [Program Management] > [リスク] > [リスクアクティビティの分析] を選択します。

[リスクアクティビティ: 作成と解決の時間変化] ページが開きます。[表示] リストで、[リスク] が選択されています。

3. 次の情報を入力します。

フィールド名	説明
表示	表示するリクエストタイプ。デフォルトの選択 ([リスク]) のままにします。
プログラム名	リスクアクティビティを表示するプログラムの名前。
プロジェクト	(エスカレーションされた) リスクアクティビティを表示するために選択したプログラムにリンクされているプロジェクトの名前。[プロジェクト] フィールドを空白にすると、そのプログラムにリンクされているすべてのプロジェクトのすべてのリスクのアクティビティ情報が表示されます。
解決日が次の日から / 次の日まで	リスクアクティビティを表示する日付範囲。

フィールド名	説明
期間	リスクアクティビティを表示するために使用する時間単位。[月] (デフォルトの選択) または [週] を選択します。

4. [適用] をクリックします。

HP Program Managementのグラフに、指定したプログラムと日付範囲を対象として、リスクの作成数および解決数が示されます。

5. グラフに表示されている情報を変更するには、[フィルタ基準] セクションで情報を変更して [適用] をクリックします。

リスク解決時間の分析

HP Program Managementを使って、プログラムに関連付けられているリスクの解決にどれくらい時間がかかったかを評価できます。

解決時間を分析するには、次の手順を実行します。

1. PPM Centerにログオンします。
2. メニューバーから、[開く] > [Program Management] > [リスク] > [リスク解決時間の分析] を選択します。

[リスク解決: 平均解決時間] ページが開きます。

3. [フィルタ基準] セクションで、次の情報を入力します。

フィールド名	説明
表示	表示するリクエストタイプ。デフォルトの選択 ([リスク]) のままにします。
プログラム名	リスク解決時間を表示するプログラムの名前。
プロジェクト	リスク解決情報を表示するために選択したプログラムにリンクされているプロジェクトの名前。[プロジェクト] フィールドを空白にすると、そのプログラムにリンクされているすべてのプロジェクトのすべてのリスクの解決情報が表示されます。
解決日が次の日から / 次の日まで	リスク解決情報を表示する日付範囲。
期間	リスク解決時間を表示するために使用する時間単位。[月] (デフォルトの選択) または [週] を選択します。

4. [適用] をクリックします。

[リスク解決: 平均解決時間] ページのグラフに、指定した期間を対象として、解決されたリスクの解決に要した平均日数が表示されます。

5. グラフの表示内容を変更するには、[フィルタ基準] セクションで情報を変更して [適用] をクリックします。

スコープ変更の管理

プロジェクトの有効期間中に発生したイベントによって、プロジェクトのスコープが変更されることがあります。プロジェクトのスコープの変更は、そのプロジェクトが関連付けられているプログラムのスコープに影響します。プロジェクトのスコープ変更リクエストを通じて、これらの変更の表示と処理のほか、変更に基づく意思決定を行うことができます。これらのスコープ変更リクエストの表示と監視には、HP Program Managementを使用します。

スコープ変更の検索

プロジェクトのスコープ変更を検索するには、次の手順を実行します。

1. PPM Centerにログオンします。
2. メニューバーから、[開く] > [Program Management] > [スコープ変更] > [スコープ変更の検索] を選択します。

[リクエストの検索] ページが開きます。[リクエストタイプ] リストフィールドに、「プロジェクトのスコープ変更リクエスト」という値が表示されます。

3. [表示するリクエストの検索] セクションで、リクエストの検索基準を指定します。
4. 検索結果の表示を設定するには、[列の選択] セクションで [利用できる列] フィールドと [選択した列] フィールドの間で項目を移動します。
5. [検索] をクリックします。

注: すべてのプロジェクトのスコープ変更リクエストをリストするには、検索基準を指定せずに [検索] をクリックします。

[リクエスト検索結果] セクションに、検索基準に一致するプロジェクトのスコープ変更リクエストがリストされます。



6. リストされているプロジェクトのスコプ変更リクエストを開くには、[リクエスト番号]列でリクエスト番号をクリックします。

[プロジェクトのスコプ変更リクエスト] ページが開きます。



7. 必要な変更を行い、[保存] をクリックします。

スコプ変更アクティビティの分析

プロジェクトのスコプ変更アクティビティを分析するには、次の手順を実行します。

1. PPM Centerにログオンします。
2. メニューバーから、[開く] > [Program Management] > [スコプ変更] > [スコプ変更アクティビティの分析] を選択します。

[**スコープ変更アクティビティ: 作成と解決の時間変化**] ページが開きます。

3. [**フィルタ基準**] セクションで、次の情報を入力します。

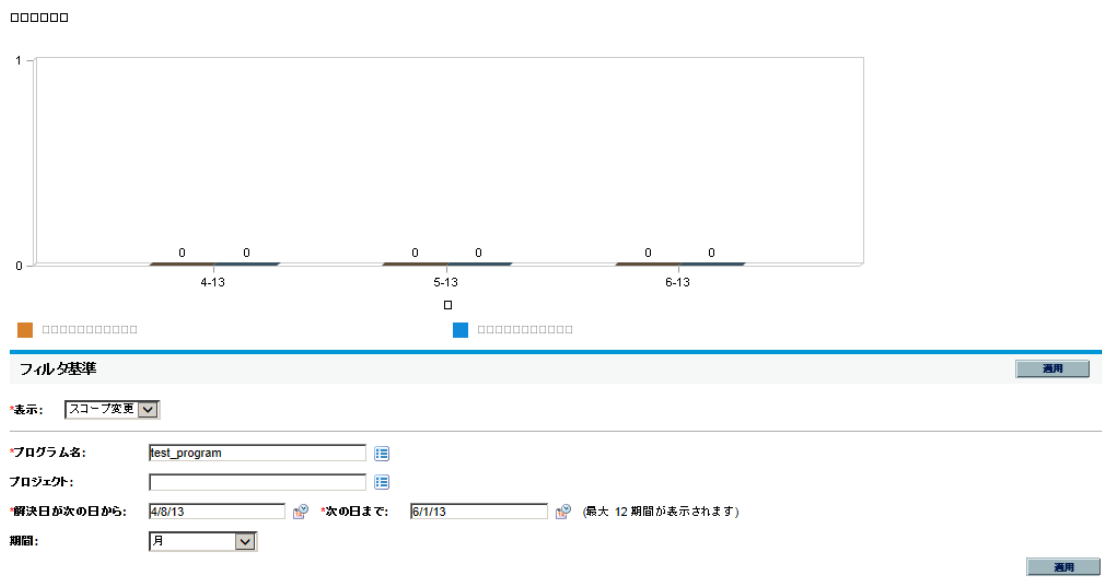
フィールド名	説明
表示	表示するリクエストタイプ。デフォルトの選択 ([スコープ変更]) のままにします。
プログラム名	プロジェクトの スコープ変更リクエスト のアクティビティを表示するプログラムの名前。
プロジェクト	スコープ変更リクエスト のアクティビティを表示するために選択したプログラムにリンクされているプロジェクトの名前。 [プロジェクト] フィールドを空白にすると、そのプログラムにリンクされているすべてのプロジェクトのすべての スコープ変更リクエスト のアクティビティ情報が表示されます。
解決日が次の日から/ 次の日まで	スコープ変更リクエスト のアクティビティ情報を表示する日付範囲。
期間	スコープ変更リクエスト のアクティビティを表示するために使用する時間単位。 [月] (デフォルトの選択) または [週] を選択します。

4. [**適用**] をクリックします。

HP Program Managementのグラフに、指定した期間の毎月 (または毎週) のプロジェクトの**スコープ変更**の作成数と解決数が表示されます。

スコープ変更 アクティビティ: 作成と解決の時間変化

スコープ変更 期間 test_program 次の 1月当たりの作成、および解決 スコープ変更 数: April 1, 2013 ~ June 30, 2013



5. グラフの表示内容を変更するには、[フィルタ基準] セクションで情報を変更して [適用] をクリックします。

スコープ変更解決時間の分析

HP Program Managementを使って、プログラムに関連付けられているプロジェクトのスコープ変更リクエストの解決にどれくらい時間がかかったを評価できます。

プロジェクトのスコープ変更解決時間を表示するには、次の手順を実行します。

1. PPM Centerにログオンします。
2. メニューバーから、[開く] > [Program Management] > [スコープ変更] > [スコープ変更解決時間の分析] を選択します。

[スコープ変更解決: 平均解決時間] ページが開きます。

3. [フィルタ基準] セクションで、次の情報を入力します。

フィールド名	説明
表示	表示するリクエストタイプ。デフォルトの選択 ([スコープ変更]) のままにします。

フィールド名	説明
プログラム名	プロジェクトのスコープ変更リクエストの解決時間を表示するプログラムの名前。
プロジェクト	スコープ変更リクエストの解決時間を表示するために選択したプログラムにリンクされているプロジェクトの名前。[プロジェクト] フィールドを空白にすると、そのプログラムにリンクされているすべてのプロジェクトのすべてのスコープ変更リクエストの解決時間が表示されます。
解決日が次の日から / 次の日まで	平均解決時間を表示する日付範囲。
期間	スコープ変更リクエストの解決時間を表示するために使用する時間単位。[月] (デフォルトの選択) または [週] を選択します。

4. [適用] をクリックします。

HP Program Managementのグラフに、指定したプログラムと期間を対象として、解決されたプロジェクトのスコープ変更の解決に要した平均日数が表示されます。

5. グラフに表示されているデータを変更するには、[フィルタ基準] セクションで情報を変更して [適用] をクリックします。

プログラムプロセスの管理

プログラムプロセスの管理とは、プログラムの問題、リスク、スコープ変更リクエストタイプに関連付けられているワークフローに変更を加えることを指します。あるプログラムのプログラムプロセスを変更すると、すべてのプログラムのプロセスが変わります。そのため、特にワークフローがリクエストタイプによって使用中である場合に、問題が生じることがあります。

問題プロセスの管理

PPM Workbenchを使って、エスカレーションされたプロジェクトの問題およびプログラムの問題に適用されているプロセスを管理できます。

プログラムの問題プロセスを管理するには、次の手順を実行します。

1. PPM Centerにログインします。
2. メニューバーから、[開く] > [管理] > [プログラムプロセス] > [問題プロセスの管理] を選択します。

[ワークフローステップソース]、[ワークフローWorkbench]、[ワークフロー: 問題管理プロセス] ウィンドウが開きます。

3. [ワークフロー: 問題管理プロセス] ウィンドウのタブを使って、プログラムの問題のワークフロー、レイアウト、使用できるリクエストタイプ、セキュリティに必要な変更を加えます。
4. **[OK]** をクリックします。[ワークフロー: 問題管理プロセス] ウィンドウが閉じます。
5. PPM Workbenchを終了します。

プロジェクトリスクプロセスの管理

プログラムにリンクされているプロジェクトについて送信済みのリスクに適用されているプロセスを管理するには、次の手順を実行します。

1. PPM Centerにログオンします。
2. メニューバーから、**[開く]** > **[管理]** > **[プログラムプロセス]** > **[プロジェクトリスクプロセスの管理]** を選択します。

[ワークフローステップソース]、[ワークフローWorkbench]、[ワークフロー: リスク管理プロセス] ウィンドウが開きます。
3. [ワークフロー: リスク管理プロセス] ウィンドウのタブを使って、ワークフロー、ワークフローステップ、レイアウト、使用できるリクエストタイプ、セキュリティに必要な変更を加えます。
4. **[OK]** をクリックします。[ワークフロー: リスク管理プロセス] ウィンドウが閉じます。
5. PPM Workbenchを終了します。

プログラムリスクプロセスの管理

プログラムについて送信済みのリスクに適用されているプロセスを管理するには、次の手順を実行します。

1. PPM Centerにログオンします。
2. メニューバーから、**[開く]** > **[管理]** > **[プログラムプロセス]** > **[プログラムリスクプロセスの管理]** を選択します。

[ワークフローステップソース]、[ワークフローWorkbench]、[ワークフロー: プログラムリスク管理プロセス] ウィンドウが開きます。
3. [ワークフロー: プログラムリスク管理プロセス] ウィンドウのタブを使って、ワークフロー、ワークフローステップ、レイアウト、使用できるリクエストタイプ、セキュリティに必要な変更を加えます。
4. **[OK]** をクリックします。[ワークフロー: プログラムリスク管理プロセス] ウィンドウが閉じます。
5. PPM Workbenchを終了します。

スコープ変更プロセスの管理

PPM Workbenchを使って、プロジェクトのスコープ変更リクエストに適用されているプロセスを管理できます。

プログラムのスコープ変更プロセスを管理するには、次の手順を実行します。

1. PPM Centerにログインします。
2. メニューバーから、[開く] > [管理] > [プログラムプロセス] > [スコープ変更プロセスの管理] を選択します。

[ワークフローステップソース]、[ワークフローWorkbench]、[ワークフロー: スコープ変更リクエストプロセス] ウィンドウが開きます。
3. [ワークフロー: スコープ変更リクエストプロセス] ウィンドウで、ワークフロー、ワークフローステップ、レイアウト、使用できるリクエストタイプ、セキュリティに必要な変更を加えます。
4. [OK] をクリックします。[ワークフロー: スコープ変更リクエストプロセス] ウィンドウが閉じます。
5. PPM Workbenchを終了します。

第6章: [プログラムマネージャ] ページ

- 「[プログラムマネージャ] ページの概要」(83ページ)
- 「PPM Dashboardへの[プログラムマネージャ] ページの追加」(84ページ)
- 「[プログラムマネージャ] ページのポートレット」(85ページ)
- 「ポートレットのカスタマイズ」(88ページ)

[プログラムマネージャ] ページの概要

HP Program Managementには、事前設定済みの[プログラムマネージャ] ページがあります。[プログラムマネージャ] ページには、ページでのポートレットの設定によって、1つ以上のプログラムが表示されます。複数の[プログラムマネージャ] ページに複数のプログラムが表示されるように設定することもできます。「[図 6-1. \[プログラムマネージャ\] ページ](#)」(84ページ)に[プログラムマネージャ] ページを示します。

図 6-1. [プログラムマネージャ] ページ

Program Manager リセット サイクル エクスポート 追加 パーソナライズ

プログラム名	相対的優先度	プログラム マネージャ	プログラムのステータス	問題	リスク	スコープ変更
Black Diamond Initiative		Carolyn Sayer	活動	▲ 7	▲ 14	▲ 12
Enterprise Business Applications	3	Carolyn Sayer	新	● 0	● 0	● 0
Partner Program	2	Carolyn Sayer	活動	● 11	▲ 12	● 3
One World	1	Carolyn Sayer	活動	● 10	▲ 15	■ 12

Excelにエクスポート ◀ ◁ 1 - 4 / 4 を表示 ▷ ▶

リクエスト ID ▲	名前	タイプ	ステータス
● 30630	Web for One World	Project	詳細項目定義
● 30632	APO - Pilot	Project	Construct
● 31786	Marketing WebPortal V2	Project	Construct
32989	Customer Dynamics	Proposal	ITSC 審査
32992	Operational Intelligence	Proposal	ITSC 審査
▲ 33077	Global Control Phase 1	Project	Construct
33136	Transaction Management	Asset	准备好进行审查
33137	Sparta System	Asset	准备好进行审查

Excelにエクスポート ◀ ◁ 1 - 8 / 8 を表示 ▷ ▶

問題リスト

このポートレットのプリファレンスを編集してください。

プログラムのスコープ変更リスト

このポートレットのプリファレンスを編集してください。

プログラムリスクリスト

このポートレットのプリファレンスを編集してください。

PPM Dashboardへの[プログラムマネージャ] ページの追加

PPM Dashboardに事前設定済みの[プログラムマネージャ] ページを追加するには、次の手順を実行します。

1. PPM Centerにログオンします。
2. メニューバーから、[ダッシュボード] > [ダッシュボードのパーソナライズ] を選択します。
[ダッシュボードのパーソナライズ] ページが開きます。
3. メニューバーの右側の領域で[プライベートページ] をクリックします。
4. [追加] アイコンをクリックします。

5. [事前設定ページの追加] を選択します。

使用可能な事前設定済みのページPPM Dashboardのリストが表示されます。

6. [プログラムマネージャ] ページを選択し、[OK] をクリックします。

ページがPPM Dashboardに追加されます。

7. 必要に応じて、[プログラムマネージャ] ページとポートレットをカスタマイズします。

PPM Dashboardに加えた変更は、自動的に保存されます。

[プログラムマネージャ] ページのポートレット

本項では、[プログラムマネージャ] ページに表示されるデフォルトのポートレットについて説明します。これらのポートレットをパーソナライズする方法については、「[ポートレットのカスタマイズ](#)」(88ページ)を参照してください。

プログラムリストポートレット

プログラムリストポートレット (「[図 6-2. プログラムリストポートレット](#)」(85ページ)) により、システム内のすべてのプログラムの詳細の高レベルのサマリが提供されます。プログラムの優先度、ステータス、関連付けられている問題などの一般情報が表示されます。このポートレットをパーソナライズして、プログラム名やプロジェクト関連の基準に基づいてフィルタを実行したり、ユーザが関係のあるデータに集中できるようにしたりすることができます。

図 6-2. プログラムリストポートレット



プログラム名	相対的優先度	プログラムマネージャ	プログラムのステータス	問題	リスク	スコープ変更
Black Diamond Initiative		Carolyn Sayer	新規	▲ 7	▲ 14	▲ 12
Enterprise Business Applications	3	Carolyn Sayer	新規	● 0	● 0	● 0
Partner Program	2	Carolyn Sayer	新規	● 11	▲ 12	● 3
One World	1	Carolyn Sayer	新規	● 10	▲ 15	■ 12

注: リストされているプログラムを表示するには、[プログラム名] 列で項目をクリックします。

プログラムリストポートレット用に構成できるすべてのフィルタフィールドの説明を表示するには、ポートレットの右上隅にある[ヘルプ]アイコンをクリックします。

プログラムコンテンツリストポートレット

プログラムコンテンツリストポートレット (「[図 6-3. プログラムコンテンツリストポートレット](#)」(86ページ)) では、プログラムに関連付けられているすべてのプロジェクトと、それぞれのヘルスインジケータを表示できます。この

ポートレットには、さまざまなプログラムとそれぞれに関連付けられているプロジェクトを表示するための複数のインスタンスが存在できます。プロジェクト名、ステータス、ヘルスなど、指定した多くの基準に基づき、ポートレットで表示されるプロジェクトを選択できます。[名前] 列のエントリをクリックすると、[プロジェクト] ページにドリルダウンできます。

図6-3. プログラムコンテンツリストポートレット



リクエスト ID ▲	名前	タイプ
30630	Web for One World	Project
30632	APO - Pilot	Project
31786	Marketing WebPortal V2	Project
32989	Customer Dynamics	Proposal
32992	Operational Intelligence	Proposal
33077	Global Control Phase 1	Project
33136	Transaction Management	Asset
33137	Sparta System	Asset

プログラムコンテンツリストポートレット用に構成できるすべてのフィルタフィールドの説明を表示するには、ポートレットの右上隅にある[ヘルプ] アイコンをクリックします。

問題リストポートレット

問題リストポートレット (「[図6-4. 問題リストポートレット](#)」(86ページ)) では、選択したプログラムに直接関連付けられているすべての問題がリストされます。1ページにこのポートレットの複数のインスタンスを表示し、複数のプログラムとそれぞれに関連付けられている問題を同時に確認できます。

問題リストポートレットをパーソナライズして、プログラムのステータス、優先度、エスカレーションレベルなどの特定の基準に基づいて問題を表示できます。個々のプロジェクトの情報を表示するには、[プロジェクト] 列でプロジェクトをクリックします。

図6-4. 問題リストポートレット



プロジェクト ▲	問題番号	優先度	エスカレーションレベル	ステータス	説明
APO - Pilot	30317	High	Project	新規	Patch release expected two weeks before GA

問題リストポートレット用に構成できるすべてのフィルタフィールドの説明を表示するには、ポートレットの右上隅にある[ヘルプ] アイコンをクリックします。

プログラムのスコープ変更リストポートレット

プログラムのスコープ変更リストポートレットでは、特定のプログラムに関連付けられているすべてのスコープ変更がリストされます (「[図6-5. プログラムのスコープ変更リストポートレット](#)」(87ページ))。1ページにこのポートレットの複数のインスタンスを表示し、複数のプログラムとそれぞれに関連付けられているスコープ変更を同時に確認できます。

プログラムのスコープ変更リストポートレットをカスタマイズして、ステータス、重要度、変更リクエストレベルなどに基づいてスコープ変更を表示できます。個々のプロジェクトの情報を表示するには、[プロジェクト]列でプロジェクトをクリックします。

図6-5. プログラムのスコープ変更リストポートレット



プロジェクト ▲	スコープ変更番号	重要度	変更リクエストレベル	ステータス	説明
APO - Pilot	30438	Medium	Level 1	新	Please add this report
APO - Pilot	30439	High	Level 2	新	PeopleSoft upgrade requires additional interfaces
Web for One World	30419	High	Level 2	新	User won't signoff
Web for One World	30418	Critical	Level 1	新	Screen layout change
Web for One World	30412	Low	Level 2	新	Add wireless access to Siebel Sales

プログラムのスコープ変更リストポートレット用に構成できるすべてのフィルタフィールドの説明を表示するには、ポートレットの右上隅にある[ヘルプ]アイコンをクリックします。

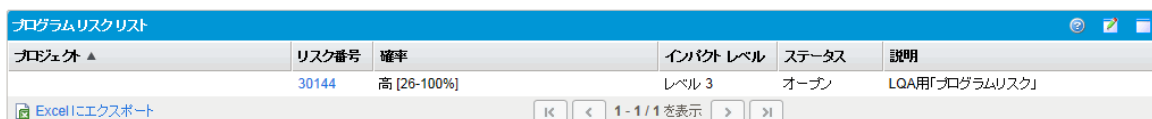
プログラムリスクリストポートレット

プログラムリスクリストポートレット (「[図6-6. プログラムリスクリストポートレット](#)」(87ページ))では、選択したプログラムに関連付けられているすべてのリスクがリストされます。1ページにこのポートレットの複数のインスタンスを表示し、複数のプログラムとそれぞれに関連付けられているリスクを同時に確認できます。

プログラムリスクリストポートレットをパーソナライズして、ステータス、重要度、確率などに基づいてリスクを表示できます。

[プロジェクト]列のエントリをクリックすると、[プロジェクト]ページにドリルダウンできます。

図6-6. プログラムリスクリストポートレット



プロジェクト ▲	リスク番号	確率	インパクトレベル	ステータス	説明
	30144	高 [26-100%]	レベル 3	オープン	LQA用「プログラムリスク」

プログラムリスクリストポートレット用に構成できるすべてのフィルタフィールドの説明を表示するには、ポートレットの右上隅にある[ヘルプ]アイコンをクリックします。

プログラムコストサマリポートレット

プログラムコストサマリポートレット (「[図6-7. プログラムコストサマリポートレット](#)」(88ページ))では、プログラムのコンテンツのロールアップ済みコストに基づき、プログラムコストのヘルスの概要が表示されます。人件費および非人件費の内訳、ベースラインに対する合計コスト、予測コストと実績コストが図に示されます。

プログラムコストサマリポートレットには、[プログラム名]というフィルタフィールドのみがあります。

注: このポートレットでデータを表示するには、HP Financial Managementを有効化し、財務サマリがアクティブになっている必要があります。プロジェクトの財務サマリがアクティブではない場合、そのプロジェクトの作業計画のコスト情報が使用されます。

図 6-7. プログラムコストサマリポートレット

プログラムコスト サマリ			
コストの概要			
資本金		予測	実績
人件費		\$2,419,651	\$603,136
非人件費		\$2,270,100	\$692,280
合計		\$4,689,751	\$1,295,416
運用		予測	実績
人件費		\$2,617,973	\$295,497
非人件費		\$4,028,000	\$1,596,670
合計		\$6,645,973	\$1,892,167
プログラム合計		\$11,335,724	\$3,187,583

[アーンドバリュの詳細](#)

[[アーンドバリュの詳細](#)] をクリックして、プログラムの [EV分析] タブを開きます。[EV分析] タブでは、SPI やCPIなどのコストデータをプログラム内のプロジェクト全体で比較できます。コストデータおよび公式の詳細については、『HP Financial Managementユーザーガイド』を参照してください。

ポートレットのカスタマイズ

ポートレットが表示するデータのほか、データの表示方法がある程度変更できます。

ポートレットをカスタマイズするには、次の手順を実行します。

1. PPM Centerにログオンします。
2. カスタマイズするポートレットが表示されているPPM Dashboardページを開きます。
3. ポートレットの右上隅にある[編集]アイコンをクリックします。
[プリファレンスの編集] ページが開きます。
4. ページに表示されるポートレットのタイトルを変更するには、次の手順を実行します。
 - a. ページの上部にある[タイトルを変更]をクリックします。
[ポートレットタイトルの編集] ウィンドウが開きます。
 - b. [タイトル] フィールドで現在のタイトルを選択し、新しいタイトルを入力します。
 - c. タイトルを保存するには、[変更]をクリックします。
5. [プリファレンス] セクションと[表示列の選択] セクションで、必要な変更を行います。

注: [プリファレンス] セクションでコントロールの説明を表示するには、ポートレットに戻り、右上隅にある[ヘルプ]アイコンをクリックします。

6. **[完了]** をクリックします。

ポートレットに変更が反映されます。

ポートレットの使用の詳細については、『ポートレットとモジュールの作成』を参照してください。

ドキュメントのフィードバックを送信

本ドキュメントについてのご意見、ご感想については、電子メールで[ドキュメント制作チーム](#)までご連絡ください。このシステムで電子メールクライアントが設定されていれば、このリンクをクリックすることで、以下の情報が件名に記入された電子メールウィンドウが開きます。

Feedback on HP Program Management User's Guide (Project and Portfolio Management Center 9.30)

本文にご意見、ご感想を記入の上、[送信]をクリックしてください。

電子メールクライアントが利用できない場合は、上記の情報をコピーしてWebメールクライアントの新規メッセージに貼り付け、HPSW-BTO-PPM-SHIE@hp.com宛にお送りください。

お客様からのご意見、ご感想をお待ちしています。